

日本史学科専門科目（平成30年度入学生用）

	科目 コード	授業 コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職 必修	概要	開放
基礎科目	30070 30080 30120		日本史概説 1	②	30	1	前期	吉田 歆	○	東洋史 西洋史[英]は専門単位[国・社]は教養単位	教養 教養 教養 教養 教養 教養 教養
			日本史概説 2	②	30	1	前期	菌部 寿樹	○		
			日本史概説 3	②	30	1	前期	小林 文雄	○		
			日本史概説 4	②	30	1	後期	布施 賢治	○		
			日本史概説 5	②	30	1	後期	山田彩起子	○		
			日本史概説 6	②	30	1	後期	原 淳一郎	○		
			外国史 1	②	30	1・2	後期	鈴木 博之	○		
			外国史 2	②	30	1・2	前期	山崎 彰	○		
			古文書学 1	②	30	1	前期	布施 賢治	○		
			古文書学 2	②	30	1	後期	山田彩起子	○		
	史学実習 1	①	45	1	後期	原 淳一郎	日本史専任教員				
	史学実習 2	①	45	2	前期	日本史専任教員	日本史専任教員				
基幹科目	30210		日本史講読 1 A	2	30	1・2	前期	吉田 歆	}	古代史 中世史 近世史 近現代史 女性史 文化史	1年次にA から履修
	30220		日本史講読 2 A	2	30	1・2	前期	菌部 寿樹			
	30230		日本史講読 3 A	2	30	1・2	前期	小林 文雄			
	30240		日本史講読 4 A	2	30	1・2	前期	布施 賢治			
	30250		日本史講読 5 A	2	30	1・2	前期	山田彩起子			
	30260		日本史講読 6 A	2	30	1・2	前期	原 淳一郎			
	30310		日本史講読 1 B	2	30	1・2	後期	吉田 歆	}	古代史 中世史 近世史 近現代史 女性史 文化史	1年次にB から履修
	30320		日本史講読 2 B	2	30	1・2	後期	菌部 寿樹			
	30330		日本史講読 3 B	2	30	1・2	後期	小林 文雄			
	30340		日本史講読 4 B	2	30	1・2	後期	布施 賢治			
	30350		日本史講読 5 B	2	30	1・2	後期	山田彩起子			
	30360		日本史講読 6 B	2	30	1・2	後期	原 淳一郎			
	30410		日本史特殊研究 1 A	2	30	2	前期	吉田 歆	}	古代史 中世史 近世史 近現代史 女性史 文化史	Aと同一番 号を履修
	30420		日本史特殊研究 2 A	2	30	2	前期	菌部 寿樹			
	30430		日本史特殊研究 3 A	2	30	2	前期	小林 文雄			
	30440		日本史特殊研究 4 A	2	30	2	前期	布施 賢治			
	30450		日本史特殊研究 5 A	2	30	2	前期	山田彩起子			
	30460		日本史特殊研究 6 A	2	30	2	前期	原 淳一郎			
	30510		日本史特殊研究 1 B	2	30	2	後期	吉田 歆	}	古代史 中世史 近世史 近現代史 女性史 文化史	Aと同一番 号を履修
	30520		日本史特殊研究 2 B	2	30	2	後期	菌部 寿樹			
	30530		日本史特殊研究 3 B	2	30	2	後期	小林 文雄			
	30540		日本史特殊研究 4 B	2	30	2	後期	布施 賢治			
	30550		日本史特殊研究 5 B	2	30	2	後期	山田彩起子			
	30560		日本史特殊研究 6 B	2	30	2	後期	原 淳一郎			
30610		日本史演習 1 A	2	30	2	前期	吉田 歆	}	古代史 中世史 近世史 近現代史 女性史 文化史	Aと同一番 号を履修	
30620		日本史演習 2 A	2	30	2	前期	菌部 寿樹				
30630		日本史演習 3 A	2	30	2	前期	小林 文雄				
30640		日本史演習 4 A	2	30	2	前期	布施 賢治				
30650		日本史演習 5 A	2	30	2	前期	山田彩起子				
30660		日本史演習 6 A	2	30	2	前期	原 淳一郎				
30710		日本史演習 1 B	2	30	2	後期	吉田 歆	}	古代史 中世史 近世史 近現代史 女性史 文化史	Aと同一番 号を履修	
30720		日本史演習 2 B	2	30	2	後期	菌部 寿樹				
30730		日本史演習 3 B	2	30	2	後期	小林 文雄				
30740		日本史演習 4 B	2	30	2	後期	布施 賢治				
30750		日本史演習 5 B	2	30	2	後期	山田彩起子				
30760		日本史演習 6 B	2	30	2	後期	原 淳一郎				
展開科目	30810		女性史 1	2	30	1・2	前期	佐藤和賀子	}	本年度開講せず [国]と合同 「生活文化史」で読替	教養 教養 教養 教養 教養 教養
	30830		女性史 2	2	30	1・2	前期	佐藤和賀子			
	30840		考古学概説	2	30	1・2	前期	佐藤 庄一			
	30850		民俗学概説	2	30	1・2	前期	岩鼻 通明			
	30860		歴史考古学	2	30	1・2	前期	山口 博之			
	30870		生活文化史 1	2	30	1・2	後期	小林 文雄			
	30880		生活文化史 2	2	30	1・2	後期	小林 文雄			
30880		国際交流史	2	30	1・2	後期	布施 賢治				
関連科目	30910		地理学 1	2	30	1・2	前期	菌部 寿樹	}	人文地理学 自然地理学 8・9月開講 [社]「政治心理学」で読替 [社]と合同 [社]「経済学入門」で読替 [国]「東洋思想」で読替	教養 教養 教養 教養 教養 教養 教養 教養 教養
	30920		地理学 2	2	30	1・2	集中	佐野 嘉彦			
	30930		地誌学	2	30	1・2	後期	菌部 寿樹			
	30940		法律学	2	30	1・2	後期	高木 絃一			
	30950		政治学	2	30	1・2	後期	亀ヶ谷雅彦			
	30960		社会学	2	30	1・2	前期	中川 恵			
	30970		経済学	2	30	1・2	前期	鈴木 久美			
	30980		倫理学	2	30	1・2	後期	岡安 儀之			
	30990		哲学	2	30	1・2	前期	小熊 正久			
	31000		宗教学	2	30	1・2	前期	原 淳一郎			
	31010		思想史	2	30	1・2	前期	小野 卓也			
31110		卒業研究	④		2						

(注) ○数字は必修単位、)○数字は選択必修単位
「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる
教職科目については、教職必修欄の科目を履修することで条件を満たす
女性史1・女性史2は隔年開講、本年度は女性史1を開講

日本史学科専門科目（平成31年度入学生用）

	科目 コード	授業 コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職 必修	概要	開放			
基礎 科目	30010		日本史概説 1	②	30	1	前期	吉田 歆	○	[国]は専門単位 [英・社]は教養単位 [国]は専門単位 [英・社]は教養単位 東洋史 西洋史[英]は専門単位[国・社]は教養単位 [国]「古文書学」で読替	教養 教養 教養 教養 教養 教養 教養			
	30020		日本史概説 2	②	30	1	前期	菌部 寿樹	○					
	30030		日本史概説 3	②	30	1	前期	小林 文雄	○					
	30040		日本史概説 4	②	30	1	後期	布施 賢治	○					
	30050		日本史概説 5	②	30	1	後期	山田彩起子	○					
	30060		日本史概説 6	②	30	1	後期	原 淳一郎	○					
	30070		外国史 1	②	30	1・2	後期	鈴木 博之	○					
	30080		外国史 2	②	30	1・2	前期	山崎 彰	○					
	30090		古文書学 1	②	30	1	前期	布施 賢治	○					
	30100	30101	古文書学 2	②	30	1	後期	原 淳一郎	○					
	30100	30102	〃					山田彩起子	○					
30110		古文書学 3	2	30	2	前期	小林 文雄	○						
		史学実習 1	①	45	1	後期	日本史専任教員							
		史学実習 2	①	45	2	前期	日本史専任教員							
基幹 科目	30210		日本史講読 1 A	2	30	1・2	前期	吉田 歆	}	古代史 中世史 近世史 近現代史 女性史 文化史	1年次にA から履修			
	30220		日本史講読 2 A	2	30	1・2	前期	菌部 寿樹						
	30230		日本史講読 3 A	2	30	1・2	前期	小林 文雄						
	30240		日本史講読 4 A	2	30	1・2	前期	布施 賢治						
	30250		日本史講読 5 A	2	30	1・2	前期	山田彩起子						
	30260		日本史講読 6 A	2	30	1・2	前期	原 淳一郎						
	30310		日本史講読 1 B	2	30	1・2	後期	吉田 歆				}	古代史 中世史 近世史 近現代史 女性史 文化史	1年次にB から履修
	30320		日本史講読 2 B	2	30	1・2	後期	菌部 寿樹						
	30330		日本史講読 3 B	2	30	1・2	後期	小林 文雄						
	30340		日本史講読 4 B	2	30	1・2	後期	布施 賢治						
	30350		日本史講読 5 B	2	30	1・2	後期	山田彩起子						
	30360		日本史講読 6 B	2	30	1・2	後期	原 淳一郎						
			日本史特殊研究 1 A	2	30	2	前期	吉田 歆	}	古代史 中世史 近世史 近現代史 女性史 文化史	Aと同一番号 を履修			
			日本史特殊研究 2 A	2	30	2	前期	菌部 寿樹						
			日本史特殊研究 3 A	2	30	2	前期	小林 文雄						
			日本史特殊研究 4 A	2	30	2	前期	布施 賢治						
			日本史特殊研究 5 A	2	30	2	前期	山田彩起子						
			日本史特殊研究 6 A	2	30	2	前期	原 淳一郎						
			日本史特殊研究 1 B	2	30	2	後期	吉田 歆	}	古代史 中世史 近世史 近現代史 女性史 文化史	Aと同一番号 を履修			
			日本史特殊研究 2 B	2	30	2	後期	菌部 寿樹						
			日本史特殊研究 3 B	2	30	2	後期	小林 文雄						
			日本史特殊研究 4 B	2	30	2	後期	布施 賢治						
			日本史特殊研究 5 B	2	30	2	後期	山田彩起子						
			日本史特殊研究 6 B	2	30	2	後期	原 淳一郎						
		日本史演習 1 A	2	30	2	前期	吉田 歆	}	古代史 中世史 近世史 近現代史 女性史 文化史	Aと同一番号 を履修				
		日本史演習 2 A	2	30	2	前期	菌部 寿樹							
		日本史演習 3 A	2	30	2	前期	小林 文雄							
		日本史演習 4 A	2	30	2	前期	布施 賢治							
		日本史演習 5 A	2	30	2	前期	山田彩起子							
		日本史演習 6 A	2	30	2	前期	原 淳一郎							
		日本史演習 1 B	2	30	2	後期	吉田 歆				}	古代史 中世史 近世史 近現代史 女性史 文化史	Aと同一番号 を履修	
		日本史演習 2 B	2	30	2	後期	菌部 寿樹							
		日本史演習 3 B	2	30	2	後期	小林 文雄							
		日本史演習 4 B	2	30	2	後期	布施 賢治							
		日本史演習 5 B	2	30	2	後期	山田彩起子							
		日本史演習 6 B	2	30	2	後期	原 淳一郎							
展開 科目	30810		女性史 1	2	30	1・2	前期	佐藤和賀子	}	本年度開講せず [国]と合同	教養 教養 教養 教養 教養			
	30830		女性史 2	2	30	1・2	前期	佐藤和賀子						
	30840		考古学概説	2	30	1・2	前期	佐藤 庄一						
	30850		民俗学概説	2	30	1・2	前期	岩鼻 通明						
	30871		歴史考古学	2	30	1・2	前期	山口 博之						
	30880		生活文化史	2	30	1・2	後期	小林 文雄						
関連 科目	30910		地理学 1	2	30	1・2	前期	菌部 寿樹	}	人文地理学 自然地理学 8・9月開講	教養 教養 教養 教養			
	30920		地理学 2	2	30	1・2	集中	佐野 嘉彦						
	30930		地誌学	2	30	1・2	後期	菌部 寿樹						
	30940		法律学	2	30	1・2	後期	高木 紘一						
	30950		政治学	2	30	1・2	後期	亀ヶ谷 雅彦						
	30960		社会学	2	30	1・2	前期	中川 恵						
	30970		経済学	2	30	1・2	前期	鈴木 久美						
	30980		倫理学	2	30	1・2	後期	岡安 儀之						
	30990		哲学	2	30	1・2	前期	小熊 正久						
	31000		宗教学	2	30	1・2	前期	原 淳一郎						
31010		思想史	2	30	1・2	前期	小野 卓也							
		卒業研究	④		2									

(注) ○数字は必修単位、)○数字は選択必修単位
 「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる
 教職科目については、教職必修欄の科目を履修することで条件を満たす
 女性史1・女性史2は隔年開講、本年度は女性史1を開講

講義科目名称：日本史概説1（30010）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修・教職必修
担当教員			
吉田 歆			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日本古代史における諸問題について講義を行う。基本的には通史的な解説を行いながら進めていくが、テーマ史的な視点から、現在の歴史研究の状況についても解説していく。それによってより深く古代史を理解することを目標とする。		
授業計画	第1回	古代国家の誕生	
	第2回	古代国家の構造	
	第3回	古代の都の誕生	
	第4回	古代の都の源流	
	第5回	天皇号の誕生	
	第6回	日本国号の成立	
	第7回	アジアとの交流	
	第8回	飛鳥の都	
	第9回	アジアの都	
	第10回	律令国家の特質	
	第11回	藤原京	
	第12回	平城京	
	第13回	桓武天皇の都	
	第14回	東北地方の支配	
	第15回	古代都市から中世都市へ	
授業概要	古代史に関するテーマを詳しく解説する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業中にわからなかった語句の意味を調べること。		
テキスト	とくに使用しない。必要に応じてプリントを配布する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	政治史だけにかたよらず、文化史などいろいろな分野にも目を配りながら進めていくので、何か一つでも興味を持てるテーマを見つけてもらいたい。		
評価方法	積極的な授業への参加度（50%）、レポート（50%）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：異文化コミュニケーション演習（21391）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
阿部 隆夫			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	国際化の中で必要な柔軟な異文化間のコミュニケーション能力育成を主題とする。目標は、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解させること、文化の多様性と異文化交流の意義について体験として理解させること、世界で英語が使われている地方の歴史、社会、文化の基本を把握させることにある。
授業計画	<p>第1回 PFC 4章音読 You and I are Independent、そのほかTOEIC問題集10問ずつ（以下毎回同様）</p> <p>第2回 PFC5章People as Individuals, Mistakes p. 15</p> <p>第3回 PFC5章音読, 英語コミ No. 21 「どうぞよろしくお願いします」</p> <p>第4回 DGDR ch. 4-3, 4-4（即ち第4章問題3、問題4、以下同様）Business is Business, Business is Family; Mistakes p. 16</p> <p>第5回 DGDR ch. 4-5 Individual Choice, Group Ensemble</p> <p>第6回 PFC6章 Being Original; Mistakes p. 17</p> <p>第7回 PFC6章音読, 英語コミ No. 22 「何歳ですか？お子さんは？（1）」</p> <p>第8回 DGDR ch. 4-6, 5-1 Team Stars, Borrowed Individuals; Mistakes p. 18</p> <p>第9回 DGDR ch. 5-2, 5-3 Talk about Talk / Silent Shifters</p> <p>第10回 PFC7章 Questions, Questions!; Mistakes p. 19</p> <p>第11回 PFC7章音読, 英語コミ No. 23 「何歳ですか？お子さんは？（2）」</p> <p>第12回 DGDR ch. 6-4, 6-5 It's Not Our Talk, It's an Example /You Don't Know What You're Talking About; Mistakes p. 20</p> <p>第13回 DGDR ch. 7-1, 7-2 The Rhythm of Talk</p> <p>第14回 PFC8章 Answer to the _Point!; Mistakes p. 21</p> <p>第15回 PFC8章音読, 英語コミ No. 24 「子供をしかる」</p> <p>第16回 DGDR ch. 7-3 Talking Turns; The Ball Machine of Conversation; Mistakes p. 22</p> <p>第17回 DGDR ch. 8-4, 8-5 The Truths about Teasing, Praising and Repeating</p> <p>第18回 PFC9章Conversational Ballgames, 個別研究口頭発表1</p> <p>第19回 PFC9章音読, 英語コミ No. 25 「飲食の誘いを断る」, 個別研究口頭発表2</p> <p>第20回 DGDR ch. 8-6 Repeated and Parallel Truths, 個別研究口頭発表3</p> <p>第21回 DGDR ch. 9-1, 9-2 Role Models: Working Man, Nurturing Mother, 個別研究口頭発表4</p> <p>第22回 PFC10章Don't Apologize!</p> <p>第23回 PFC10章音読, 英語コミ No. 26 「飲食に誘う」</p> <p>第24回 DGDR ch. 9-3 Independent American Decision Makers, 個別研究口頭発表5</p>

	<p>第25回 DGDR ch. 10-4, 10-5 Becoming American, Staying Japanese, 個別研究口頭発表6</p> <p>第26回 PFC11章Nobody Told Me!</p> <p>第27回 PFC11章音読, 英語コミ No. 27「がんばって、ごくろうさま」</p> <p>第28回 DGDR ch. 10-6 Mirrors, Mirrors, 英語コミ No. 28「苦情を言う」</p> <p>第29回 PFCまとめ, 英語コミ No. 29「どれでも結構です」</p> <p>第30回 DGDRまとめ, 英語コミ No. 30「客に挨拶をする」</p>
授業概要	<p>異文化間コミュニケーション論を駆使して英語圏の社会言語文化の理解を深める練習をする。日本で普及していない最新の言語習得方法に基づいて、和訳・英訳を超えて英語圏で友人ができるような真のコミュニケーターを養成する訓練をする。主教材DGDR、副教材、他TOEIC問題集を毎回1ページずつ毎回の時間を下記内容で三等分し、均等にアてる。</p> <p>(省略語)</p> <p>DGDR: Different Games, Different Rules</p> <p>PFC: Polite Fictions in Collision</p> <p>『英語コミ』:ピンときた! 納得の異文化間英語コミュニケーション</p> <p>Mistakes:Takao Abe, Common Mistakes in English</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>毎回小課題が出されるので専用乃の用紙に記載して提出してほしい。異文化に関して各自で題目を決めて平時から自習し5ページ以内のレポートを制作するか、パワーポイントでプレゼンテーションを行うこと。</p>
テキスト	<p>タカオ・アベ『ピンときた! 納得の異文化間英語コミュニケーション』(開拓社2012年)、『TOEICテスト公式問題集』(IIBC 2016年)、Haru Yamada, Different Games, Different Rules (Oxford UP, 1997)、Takao Abe, Common Mistakes in English (非出版本)</p>
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	
評価方法	<p>平常の発表課題 (60%)、提出課題 (40%)</p>
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史概説2（30020）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修・教職必修
担当教員			
菌部 寿樹			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 日本中世史の基礎的な知識を得ること。 2. 現代に立脚して長いタイムスパンで歴史をとらえる眼を養い、歴史的な思考方法を会得すること。		
授業計画	第1回	中世とは何か	
	第2回	中世の権力者と天皇（上）	
	第3回	中世の権力者と天皇（下）	
	第4回	中世人の食生活（上）	
	第5回	中世人の食生活（下）	
	第6回	中世民衆の身分と名前（上）	
	第7回	中世民衆の身分と名前（下）	
	第8回	中世人の経済観念（上）	
	第9回	中世人の経済観念（下）	
	第10回	中世人の時間観念（上）	
	第11回	中世人の時間観念（下）	
	第12回	中世法の特質（上）	
	第13回	中世法の特質（下）	
	第14回	中世の刑罰と社会（上）	
	第15回	中世の刑罰と社会（下）	
授業概要	通常の概説のように時系列を重視するのではなく、研究上の問題点や興味深い話題を提供する形で講義をします。1～2回の講義で1つのテーマが完結する形で授業をすすめます。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	講義後、レジュメに示した参考文献を読んで、理解を深めて下さい。		
テキスト	必要に応じて、プリントや参考資料を配布します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	一方通行とならない講義を心がけますので、積極的に授業に参加してください。また毎テーマ終了後に小アンケートを実施します。		
評価方法	期末レポート（90%）、小アンケート[記名記載]による評価（10%）		
参考文献	毎回、講義内容に即した参考文献を示します。		
備考			

講義科目名称：日本史概説3（30030）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修・教職必修
担当教員			
小林 文雄			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 現代社会を理解する上で歴史的なものの見方が欠かせないことを理解できるようになる。 2. 問題に関心を持って日本史を考えることができるようになる。
授業計画	<p>第1回 日本近世史とは何か</p> <p>第2回 世界のなかの近世日本（1） 東アジアのなかの日本</p> <p>第3回 世界のなかの近世日本（2） 北方世界と近世日本 蝦夷地を取りまく世界</p> <p>第4回 近世の支配体制</p> <p>第5回 近世の統治の思想</p> <p>第6回 近世の民衆運動（1） 百姓一揆の結合原理</p> <p>第7回 近世の民衆運動（2） 百姓一揆を支える社会規範</p> <p>第8回 近世の文字と社会</p> <p>第9回 近世の人びとの読み書き能力</p> <p>第10回 鎖国観念の成立</p> <p>第11回 近代以前の日本の境界と国境</p> <p>第12回 近世の村の自治をめぐる</p> <p>第13回 近世の村の掟と刑罰</p> <p>第14回 近世の郡中議定と地域社会</p> <p>第15回 近世の自然と社会</p>
授業概要	日本近世史の諸問題について、講義します。通史的な概説や、政治史・経済史・文化史といった、分野ごとの解説は行わず、研究上の争点や近年注目されているトピックを取り上げて講義します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業で取り上げた文献等を図書館で借りて読むようにこころがけてください。
テキスト	必要に応じて資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	授業の理解度をはかるために、質問用シートを何回か提出してもらいます。
評価方法	期末レポート80%、質問用シートによる評価20%
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史概説4（30040）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修・教職必修
担当教員			
布施 賢治			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	自ら問題意識を持ち、日本近代史の諸問題について考え、それを現代社会の諸問題と関連づけて検討できるようにすること。		
授業計画	第1回	明治維新の時代区分 ～明治維新はいつからいつまで？	
	第2回	明治維新と国家形成 ～明治維新の結果どんな社会が形成されたのか？	
	第3回	明治維新と主体勢力 ～明治維新は誰が達成したのか？	
	第4回	海防と武士・農民・国家 ～異国船に日本はどう対応したのか？	
	第5回	明治維新と剣術 ～新撰組はなぜ活躍できたのか？維新後彼らはどうなったのか？	
	第6回	武士から士族へ ～武士はどのようにリストラされたのか？	
	第7回	大日本帝国憲法を読んでみる	
	第8回	地方改良運動とは ～現在の地域社会の原型はいつ頃形成されたのか？	
	第9回	立身出世主義 ～近代を動かした心のエンジンとは何だろうか？	
	第10回	大正デモクラシー ～日本人はいつからアメリカを意識しだすのか？	
	第11回	現代化の契機とメディア ～いつから現代は始まるのか	
	第12回	デモクラシーと戦争 ～大正デモクラシーの後何故戦争がはじまるのか？	
	第13回	総力戦と現代化—連続と断絶— ～戦後社会はすでに戦前社会に出来ていたのか？	
	第14回	民衆と戦中・戦後 ～民衆は戦争・戦後とどのように向き合ったのか？	
	第15回	戦前・戦後のニュース映画を見る ～映像史料から考える	
授業概要	日本近代史の諸問題について概説的に講述する。講義形式。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	日頃より読書やほかの講義の受講を通じて、この授業のテーマについて主体的に考えること。		
テキスト	特になし。必要に応じてプリントを配布します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	わかりやすい授業を心がけていきます。疑問点や質問は随時受け付けます。		
評価方法	期末レポート		
参考文献			
備考			

講義科目名称：日本史概説5（30050）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修・教職必修
担当教員			
山田 彩起子			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日本女性史の通史を理解することを目指します。		
授業計画	第1回	女性史とはなにか	
	第2回	古代社会と女性	
	第3回	古代の女帝	
	第4回	摂関政治と国母	
	第5回	中世社会と女性	
	第6回	女院と天皇家領荘園	
	第7回	中世の朝廷と女房	
	第8回	北条政子と日野富子	
	第9回	近世社会と女性	
	第10回	近世の女帝	
	第11回	江戸城大奥	
	第12回	近現代社会と女性	
	第13回	近代の皇后と女官たち	
	第14回	現代の皇后と女性皇族たち	
	第15回	展望・社会における女性のあり方	
授業概要	日本中世女性史を中心に、古代から近現代までの女性史を通覧していきます。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業で提示する参考文献の中から関心あるものを見つけ出し、読んでみて下さい。		
テキスト	毎回レジュメを配布します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	学生の理解度をはかるために、毎回質問用紙（要記名）を配布します。		
評価方法	期末レポート80%、授業参加度20%(質問用紙によりチェックします)		
参考文献	毎回レジュメに記載します。		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修・教職必修
担当教員			
原 淳一郎			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	本授業の目的は3つある。第1に、歴史に親しんでもらうこと、第2に、文化史とはいかなる学問なのか知ってもらうこと。第3に、自分達が生まれた「日本列島」（「日本」とは限らない）がいかなる歴史を歩んできたかを認識してもらうこと、またはその手がかりを与えることである。本授業ではあまり時代にこだわらず、現代社会とつながる問題意識で多角的な歴史像を紹介したい。歴史学は記憶の学問ではない。考える学問である。ひとつの具体的事実が、どのような社会的背景から引き起こされたのか、私の力の及ぶ限り説明していきたい。
授業計画	<p>第1回 史学とは？文化史とは？民俗学とは？文化人類学とは？</p> <p>第2回 歴史学における過去と現在（マルクス主義と皇国史観）</p> <p>第3回 歴史学における過去と現在（マルクス主義と皇国史観）</p> <p>第4回 稲作の起源と日本人起源論</p> <p>第5回 柳田國男と日本民俗学（ビデオ）</p> <p>第6回 いくつもの日本（東と西の日本文化）</p> <p>第7回 いくつもの日本（北と南の日本文化）</p> <p>第8回 日本国の成立と「日本人」</p> <p>第9回 伊波普猷と沖縄学（ビデオ）</p> <p>第10回 被差別と伝統文化</p> <p>第11回 都市と農村（太閤検地と徳川吉宗・柳田國男・柳宗悦）</p> <p>第12回 国家と統計・調査（『菊と刀』、太平洋戦争史、外国人から見た日本、西洋と日本の差異）</p> <p>第13回 日本人論の展開（『手仕事の日本』、『日本風景論』、『遠野物語』、『ニッポン』・『日本文化私観』、『タテ社会の人間関係』、『甘えの構造』…）</p> <p>第14回 日本人論の展開（『手仕事の日本』、『日本風景論』、『遠野物語』、『ニッポン』・『日本文化私観』、『タテ社会の人間関係』、『甘えの構造』…）</p> <p>第15回 日本人論の展開（『代表的日本人』、『茶の本』・『東洋の理想』、『武士道』）</p>
授業概要	日本文化について様々に思考してきた先人達の書籍を紹介しながら、①日本人と日本国がいかに多様であるか、ということ、②現在の我々にとって常識であることが、必ずしも過去には常識ではないこと、などを知って貰い、受講生各自が、③日本とは何か、日本人とは何か、日本の文化とは何か、ということについて多様な視点から思索してもらう機会とする。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	日頃より読書やテレビ視聴、映画鑑賞を通じて、積極的に情報収集し、日本人、日本国、日本の文化について主体的に考えること
テキスト	すべてプリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	できうる限り色々な著書を読んだり原史料に触れる機会をつくりたいと思います。歴史家、思想家、宗教家などの主張を紹介した際には、できうる限りその著書（現代語訳でもよいので）を読んでください。ある地域の話をする場合にはその場所をしっかりと認識してください。固有名詞や専門用語を登場させる場合には耳だけで聞き流さないでください。ちょっと地図帳を開いたりインターネットで調べるだけでもきっと違います。
評価方法	数回(6回程度)の課題で評価します。それぞれ4段階に評価し、平均をとります。その内容の高度さはもちろん、いかに講義中に自分の頭を使って考えたかが伝わるような主体的な取り組み方が窺われるものを評価します。
参考文献	佐々木高明『日本文化の多様性』（小学館、2009）をはじめとして、様々な文献、研究を紹介します。興味を抱いたものは是非図書館で手に取ってみてください。

講義科目名称：外国史1（30070）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	必修・教職必修
担当教員			
鈴木 博之			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	古代から現代までテーマ別に中国の歴史を講義する。ただ、通史的な解説は行わないので、前もって概説書などで基本的な知識は準備しておいてもらいたい。中国史に止まらず、世界史的な視点から中国文明のあり方を理解したい。		
授業計画	第1回	時代区分論	
	第2回	黄河文明の誕生	
	第3回	長江文明の発見	
	第4回	古代帝国の成立—秦漢帝国—	
	第5回	『史記』の世界—項羽と劉邦—	
	第6回	中世世界の成立	
	第7回	『三国志演義』の世界	
	第8回	隋唐世界帝国—遣唐使と日本—	
	第9回	近世社会の成立—都市革命—	
	第10回	モンゴル帝国—遊牧国家—	
	第11回	明清時代—紫禁城の黄昏—	
	第12回	銀の世紀—岩見銀山とポトシ銀山—	
	第13回	清の平和—長崎貿易—	
	第14回	中国の近代—上海—	
	第15回	革命の世紀—20世紀—	
授業概要	講義形式で解説する。映像資料も活用する予定である。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	レポートを課すので、そのための下調べを行うことや興味のある時代に関する本を読んでほしい。		
テキスト	使用しない（適宜プリントを配布する）		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	日本とも関連の深い遣唐使なども取り扱う予定なので、日中の社会構造の違いにも留意したい。		
評価方法	チェックテスト（適宜）、レポート数回、定期試験を総合的に判定する。		
参考文献	寺田隆信『物語 中国の歴史』（中公新書1353 1997年）		
備考			

講義科目名称：外国史2（30080）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	必修・教職必修
担当教員			
山崎 彰			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. ヨーロッパの複数の国の歴史を学ぶことで、ヨーロッパ史について多面的な関心を深めることができるようになる。 2. 授業で扱った国の個性が長い歴史の経過から形成されたことを理解し、適切に説明することができるようになる。		
授業計画	第1回	全体の課題	
	第2回	イタリア古代と中世	
	第3回	ルネサンスと近代イタリア	
	第4回	中世フランス	
	第5回	近世フランス	
	第6回	フランス革命と近代フランス	
	第7回	ブリテン島諸地域の形成	
	第8回	連合王国の形成	
	第9回	イギリス植民地帝国	
	第10回	スイス盟約者団	
	第11回	近代スイス連邦国家	
	第12回	中世ドイツ	
	第13回	近世ドイツ	
	第14回	現代ドイツ	
	第15回	まとめ	
授業概要	ヨーロッパの多様な国家を互いに比較し、それぞれの特徴を明確にする。この特徴が中世、場合によっては古代以来、長い時間をかけて形成してきたことを明らかにし、これによってヨーロッパについてのイメージを豊かにする。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	日頃よりヨーロッパ史に関する書物を読み、この授業のテーマについて主体的・積極的に考えること。		
テキスト	プリント配布		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	ヨーロッパに関する本（歴史書に限らず）をできるだけ多く読んでほしい。		
評価方法	授業への参加度(40%)、期末の理解度確認調査(60%)		
参考文献			
備考			

講義科目名称：古文書学1（30090）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
布施 賢治			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	歴史を学ばさい、最も多く依拠されるのは古文書です。古文書には、その時代の政治体制によって、形式・紙質・用語・書体などにそれぞれの特殊性があります。それらの特殊性を理解しながら、できるだけ多くの古文書に接し、その読解力を深めるようにします。		
授業計画	第1回	古文書学とは 1 ～古文書を歴史学から考える、様式論から考える～	
	第2回	古文書学とは 2 ～古文書とは、古文書学の歴史～	
	第3回	古文書学とは 3 ～古文書の作成順序と形態～	
	第4回	公式様文書 ～詔書・勅旨・符・移・牒・解～	
	第5回	公家様文書 1 ～官宣旨・宣旨～	
	第6回	公家様文書 2 ～口宣案・下文～	
	第7回	公家様文書 3 ～書札様文書・奉書・御教書・院宣・綸旨～	
	第8回	鎌倉時代の武家文書 ～下文・下知状～	
	第9回	南北朝・戦国期の武家文書 1 ～御判御教書・書下・判物～	
	第10回	南北朝・戦国期の武家文書 2 ～御内書・印判状～	
	第11回	上申文書 1 ～解文・訴陳状・紛失状・請文～	
	第12回	上申文書 2 ～起請文・軍忠状～	
	第13回	証書類 ～議状・置文・売券・借用状・和与状～	
	第14回	藩政・近代の文書	
	第15回	総復習	
授業概要	講義形式		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	日頃より読書や他の講義の受講を通じて、この授業のテーマについて主体的に考えること。		
テキスト	プリントを配布します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	わかりやすい授業を心がけていきます。疑問点や質問は随時受け付けます。		
評価方法	授業への参加度と期末試験		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
原 淳一郎（01） 山田 彩起子（02）			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	近世文書で使われる書体の読解力を身につける。いわゆる「くずし字」を判読する力を高める。
授業計画	<p>第1回 くずし字読解のためのガイダンス、クラス分け</p> <p>第2回 江戸名所図会を読む－「かな」の練習（1）</p> <p>第3回 女今川を読む－「かな」の練習（2）</p> <p>第4回 ルビを振られた文書を読む－「かな」の練習（4）</p> <p>第5回 江戸時代の文体に慣れよう－「かな」の練習（5）</p> <p>第6回 手代の式目を読む－「かな」の練習（6）</p> <p>第7回 小まとめ</p> <p>第8回 宗門人別改帳を読む－「漢字」の練習（1）</p> <p>第9回 交通・旅行に関する文書を読む（1）－「漢字」の練習（2）</p> <p>第10回 交通・旅行に関する文書を読む（2）－「漢字」の練習（3）</p> <p>第11回 交通・旅行に関する文書を読む（3）往来手形など－「漢字」の練習（4）</p> <p>第12回 離縁状を読む</p> <p>第13回 結婚・離婚に関する文書を読む</p> <p>第14回 奉公人請状を読む</p> <p>第15回 借用証文を読む</p>
授業概要	近世文書のコピー版を配布し、受講生が各自判読し、板書する。板書された判読結果に朱を入れ、解説を加える形で、授業を進める。1回目のガイダンスでクラス分けを行う。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業の予習・復習をしっかりとすること。
テキスト	プリントを配布
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	受講生にとっては、くずし字を読むのは、骨が折れることと思います。でも、少し辛抱すれば、ちよつとずつ読めるようになっていきます。予習、復習を大切にしてください。
評価方法	期末試験。全体で3問。1問は初見のかな文字。2問はテキスト終了範囲から1問。3問はテキスト未修範囲から1問。2問目がほぼ正解できていれば単位取得可能。あとは1問目、3問目の正答率で「特優」から「可」まで判断する。
参考文献	
備考	

講義科目名称：史学実習1（30110）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
日本史専任教員			
			授業形態：実習
授業のテーマ及び到達目標	学外の講師を招聘し、最先端の研究成果に基づく講義、および自治体における文化財保護の現状に関する講義などを通じて、個人の卒業研究の参考とし、且つ日本史の専門的知識を生かした職業への理解を深める。また学外の史跡等見学を通じて各地域の歴史、文化、文化財保護の現状への理解を深める。		
授業計画	第1回 ガイダンス 2 学内日本史専任教員による講義・実習 3回 古銭・銅鐸等の拓本をとる、など 3 学外講師による講義・実習 6回 4 学外研修 4回 県内の史跡見学、博物館・資料館見学、など 5 まとめ		
授業概要	学外の研究者による講義ならびに学外研修		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	休日あるいは長期休暇を利用して、米沢市、山形県、出身地周辺の史跡、博物館を訪れ、祭礼行事に積極的に参加すること		
テキスト	なし		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	学外講師および研修先は直前に決定し、すみやかに掲示します。毎回集合場所など変わりますので、掲示に注意してください。		
評価方法	出席70%、課題30%		
参考文献			
備考			

講義科目名称：史学実習2（30120）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
日本史専任教員			
			授業形態：実習

授業のテーマ及び到達目標	学外の講師を招聘し、最先端の研究成果に基づく講義、および自治体における文化財保護の現状に関する講義などを通じて、個人の卒業研究の参考とし、且つ日本史の専門的知識を生かした職業への理解を深める。また学外の史跡等見学を通じて各地域の歴史、文化、文化財の保護の現状への理解を深める。		
授業計画	1	ガイダンス	
	2	学外講師による講義 6回	
	3	学内日本史専任教員による講義 3回	
	4	学外研修 5回 市内史跡・文化財見学、博物館・資料館見学、石碑の拓本をとる実習、など	
	5	夏季休暇中における研修旅行	
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学外の研究者による講義ならびに学外研修 ・夏季休暇中における研究室ごとの研修旅行 		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	休日あるいは長期休暇を利用して、米沢市、山形県、出身地周辺の史跡、博物館を訪れ、祭礼行事に積極的に参加すること		
テキスト	なし		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	学外講師および研修先は直前に決定し、すみやかに掲示します。毎回集合場所など変わりますので、掲示に注意してください。		
評価方法	出席70%、課題30%		
参考文献			
備考			

講義科目名称：日本史講読1A (30210)

授業コード：

英文科目名称：-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
吉田 歓			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	古代史の文献史料を読むことを通じて、古代史に関する知識を深めるとともに、文献史料を読む方法、調べる方法を身につけることを目的とする。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 日本古代史史料総論</p> <p>第2回 受講者による報告と解説(1)</p> <p>第3回 受講者による報告と解説(2)</p> <p>第4回 受講者による報告と解説(3)</p> <p>第5回 受講者による報告と解説(4)</p> <p>第6回 受講者による報告と解説(5)</p> <p>第7回 受講者による報告と解説(6)</p> <p>第8回 受講者による報告と解説(7)</p> <p>第9回 受講者による報告と解説(8)</p> <p>第10回 受講者による報告と解説(9)</p> <p>第11回 受講者による報告と解説(10)</p> <p>第12回 受講者による報告と解説(11)</p> <p>第13回 受講者による報告と解説(12)</p> <p>第14回 受講者による報告と解説(13)</p> <p>第15回 受講者による報告と解説(14)</p>
授業概要	古代史の基本史料の『続日本紀』を読む。受講者各自が分担して調査・報告する形をとる。ここから奈良・平安時代の政治・制度・人物・社会・文化など、さまざまな姿を学びます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	該当資料について事前に読み調べること。
テキスト	プリントを配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	漢和辞典・国語辞典・歴史事典などで調べてくるのが重要です。面倒くさがらずに、辞書を引きましょう。
評価方法	積極的な授業への参加度（50%）、レポート（50%）
参考文献	新古典文学大系『続日本紀』一～五（岩波書店） 林陸朗編『完訳注釈 続日本紀』（現代思潮社）
備考	

講義科目名称：日本史講読2A (30220)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
菌部 寿樹			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 中世の文献史料の読解力を身につけること。 2. 中世の政治・社会・文化などに関して認識を深めること。
授業計画	<p>第1回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論 受講者各自が逐条分担して調査・報告するかたちで、輪読します。 受講者1人あたり、最低でも2回は担当できるようにしたいと思います。</p> <p>第2回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第3回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第4回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第5回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第6回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第7回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第8回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第9回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第10回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第11回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第12回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第13回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第14回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第15回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p>
授業概要	中世の王族・伏見宮貞成の日記『看聞日記』を読みます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	講義前に講義で輪読する箇所を読み込んでおくこと。また講義後に輪読した箇所を再読して下さい。
テキスト	『図書寮叢刊 看聞日記』を用います。講読箇所について、プリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	漢字だらけの文体で、最初はとりくみがたい感じがすると思います。しかし、読解の作業により、中世社会の興味深い事象が具体的かつ豊かに理解できるようになるでしょう。自己の担当分だけでなく、他の受講者の担当箇所についても、その読解に関して積極的に取り組むことを期待しています。教員としても、受講生が発言しやすいように工夫したいと思います。
評価方法	期末レポート（80%）、平常点（20%） 平常点においては、読解のための調査をできるかぎり行ったかどうか、積極的に解釈に取り組んだかどうかを中心に評価します。
参考文献	参考文献は、横井清『室町時代の一皇族の生涯』（講談社学術文庫）、位藤邦生『伏見宮貞成の文学』（清文堂）、松岡心平編『看聞日記と中世文化』（森話社）などです。この3冊は、附属図書館にあります。購入する必要はありません。その他の参考文献は講義中に適宜指示します。
備考	

講義科目名称：日本史講読3A (30230)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
小林 文雄			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 近世史料（江戸時代の文章・文体）に慣れる。 2. 近世の紀行文の読解を通して、奥羽（東北地方）の文化への知見を深める。
授業計画	<p>第1回 近世史料の特徴の解説とテキストの説明</p> <p>第2回 近世後期の政治・社会状況の解説</p> <p>第3回 受講者による報告</p> <p>第4回 受講者による報告</p> <p>第5回 受講者による報告</p> <p>第6回 受講者による報告</p> <p>第7回 受講者による報告</p> <p>第8回 受講者による報告</p> <p>第9回 受講者による報告</p> <p>第10回 受講者による報告</p> <p>第11回 受講者による報告</p> <p>第12回 受講者による報告</p> <p>第13回 受講者による報告</p> <p>第14回 受講者による報告</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	菅江真澄の紀行文を読む。受講者が、割り当てられた部分を読み、現代語訳する。そこから、近世史の諸問題について考察する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	あらかじめ受講者にテキストのページを指定しておきますので、該当する箇所を辞書や関連図書で事前に調べておいてください。
テキスト	『菅江真澄全集』（未来社）より抜粋（プリントを配布します。）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	最初のうちは、文章が難しく感じられるかも知れません。でも、菅江真澄の旅を追体験することで、江戸時代の庶民の生活にふかく入り込むことができれば、興味をもって読めるようになると思います。
評価方法	期末レポート70%、授業での報告30%
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史講読4A (30240)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
布施 賢治			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	日本近代史の基本的な史料の講読を通じて、近代史の政治・社会・文化に関する知識を高めることを目標とする。		
授業計画	第1回	講読4Aの授業の進め方の解説	
	第2回	講読4Aで読む史料の解説（幕末維新时期・明治期の史料を読みます）	
	第3回	受講生による報告と質疑応答	
	第4回	受講生による報告と質疑応答	
	第5回	受講生による報告と質疑応答	
	第6回	受講生による報告と質疑応答	
	第7回	受講生による報告と質疑応答	
	第8回	受講生による報告と質疑応答	
	第9回	受講生による報告と質疑応答	
	第10回	受講生による報告と質疑応答	
	第11回	受講生による報告と質疑応答	
	第12回	受講生による報告と質疑応答	
	第13回	受講生による報告と質疑応答	
	第14回	受講生による報告と質疑応答	
	第15回	まとめ	
授業概要	演習形式		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	文献研究やアカデミックプレゼンテーションの準備を自主的に進めておくこと。		
テキスト	該当史料のプリントを配布します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	わかりやすい授業を心がけていきます。疑問点や質問は随時受け付けます。		
評価方法	授業への参加度（50%）と担当する報告レジュメの内容（50%）。		
参考文献			
備考			

講義科目名称：日本史講読5A (30250)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
山田 彩起子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	中世社会を理解するために、当該期の史料の読解力をつけることを目指します。この授業で読む『明月記』の記主藤原定家は歌人として有名ですが、『明月記』の内容は、和歌のことだけでなく、宮中での儀礼や日々の暮らしのことなど盛りだくさんです。また、女房として宮仕えしていた姉妹や娘についての記述も見られるため、『明月記』は当該期の女房について研究する上でも大変貴重な史料です。
授業計画	<p>第1回 『明月記』 およびその読解についてのガイダンス</p> <p>第2回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第3回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第4回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第5回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第6回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第7回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第8回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第9回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第10回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第11回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第12回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第13回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第14回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第15回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p>
授業概要	鎌倉時代の歌人藤原定家の日記『明月記』を輪読します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	輪読担当箇所以外の記事にも予め目を通しておくこと。
テキスト	『翻刻 明月記』より、輪読箇所をコピーして配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	内容理解のために、事典や辞書をこまめに引く習慣を身につけましょう。学習方法等、不明なことについては随時質問を受け付けます。
評価方法	授業での報告50%、期末レポート50%
参考文献	明月記研究会編『明月記研究提要』（八木書店、2006年）
備考	

講義科目名称：日本史講読6A (30260)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
原 淳一郎			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	史料を音読し慣れることで史料読解力を高める。また使用する史料を手掛かりにして、日本の宗教史・文化史などへの理解も深める。		
授業計画	第1回	魂の行方	
	第2回	郷土研究の方法	
	第3回	酒の飲み用の変遷	
	第4回	木綿以前のこと	
	第5回	木綿以前のこと	
	第6回	雪国の春	
	第7回	雪国の春	
	第8回	海上の道	
	第9回	海上の道	
	第10回	海上の道	
	第11回	海上の道	
	第12回	海上の道	
	第13回	ビデオ（南方熊楠と神社合祀令反対運動）	
	第14回	妖怪談義	
	第15回	蝸牛考	
授業概要	柳田国男の著書・論考・手紙の輪読および簡単な討論を通して、日本文化を理解する手がかりとしたいと考えています。また南方熊楠との「山人論争」および近代天皇制国家による神社合祀政策への共闘、あるいは柳田の植民地主義・国家主義的な側面、エロティシズムの排除、実証的な研究方法などを紹介するなどして、柳田という人物への思想的理解、ならびに民俗学の研究手法および先行研究批判の過程をともに学んでいきたいと考えています。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	予習はもちろん、各自の担当箇所はしっかりと調べてきてください。		
テキスト	授業のなかで配布します。ただし人数が少なければ、各自全集などから興味のあるものを選んでもらい皆で読んでいくことも考えています。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	しっかりと予習をしてきてください。		
評価方法	輪読の様子、課題報告の2点で評価します。		
参考文献			
備考			

講義科目名称：日本史講読1B（30310）

授業コード：

英文科目名称：-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
吉田 歓			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	古代史の文献史料を読むことを通じて、古代史に関する知識を深めるとともに、文献史料を読む方法、調べる方法を身につけることを目的とする。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 文献史料と出土文字資料の解説</p> <p>第2回 受講者による報告と解説(1)</p> <p>第3回 受講者による報告と解説(2)</p> <p>第4回 受講者による報告と解説(3)</p> <p>第5回 受講者による報告と解説(4)</p> <p>第6回 受講者による報告と解説(5)</p> <p>第7回 受講者による報告と解説(6)</p> <p>第8回 受講者による報告と解説(7)</p> <p>第9回 受講者による報告と解説(8)</p> <p>第10回 受講者による報告と解説(9)</p> <p>第11回 受講者による報告と解説(10)</p> <p>第12回 受講者による報告と解説(11)</p> <p>第13回 受講者による報告と解説(12)</p> <p>第14回 受講者による報告と解説(13)</p> <p>第15回 受講者による報告と解説(14)</p>
授業概要	古代史の基本史料の『続日本紀』を読む。受講者各自が分担して調査・報告する形をとる。ここから奈良・平安時代の政治・制度・人物・社会・文化など、さまざまな姿を学びます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	該当資料について事前に読み調べること。
テキスト	プリントを配付する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	漢和辞典・国語辞典・歴史事典などで調べてくるのが重要です。面倒くさがらずに、辞書を引きましょう。
評価方法	積極的な授業への参加度（50%）、レポート（50%）
参考文献	新古典文学大系『続日本紀』一～五（岩波書店） 林陸朗編『完訳注釈 続日本紀』（現代思潮社）
備考	

講義科目名称：日本史講読2B (30320)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
菌部 寿樹			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 中世の文献史料の読解力を身につけること。 2. 中世の政治・社会・文化などに関して認識を深めること。
授業計画	<p>第1回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論 受講者各自が逐条分担して調査・報告するかたちで、輪読します。 受講者1人あたり、最低でも2回は担当できるようにしたいと思います。</p> <p>第2回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第3回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第4回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第5回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第6回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第7回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第8回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第9回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第10回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第11回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第12回 受講生による講読とそれに対する指導・討論</p> <p>第13回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第14回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第15回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p>
授業概要	中世の王族・伏見宮貞成の日記『看聞日記』を読みます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	講義前に講義で輪読する箇所を読み込んでおくこと。また講義後に輪読した箇所を再読して下さい。
テキスト	『図書寮叢刊 看聞日記』を用います。講読箇所について、プリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	漢字だらけの文体で、最初はとりくみがたい感じがすると思います。しかし、読解の作業により、中世社会の興味深い事象が具体的かつ豊かに理解できるようになるでしょう。自己の担当分だけではなく、他の受講者の担当箇所についても、その読解に関して積極的に取り組むことを期待しています。教員としても、受講生が発言しやすいように工夫したいと思います。
評価方法	期末レポート（80%）、平常点（20%） 平常点においては、読解のための調査をできるかぎり行ったかどうか、積極的に解釈に取り組んだかどうかを中心に評価します。
参考文献	参考文献は、横井清『室町時代の一皇族の生涯』（講談社学術文庫）、位藤邦生『伏見宮貞成の文学』（清文堂）、松岡心平編『看聞日記と中世文化』（森話社）などです。この3冊は、附属図書館にあります。購入する必要はありません。その他の参考文献は講義中に適宜指示します。
備考	

講義科目名称：日本史講読3B (30330)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
小林 文雄			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 近世史料の読解力を高める。 2. 近世史の基本ツールの活用法を身につけ、歴史学の調査方法と手順を習得する。
授業計画	<p>第1回 近世史料の特徴とテキスト『耳囊』の解説</p> <p>第2回 近世史の調査方法の解説</p> <p>第3回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第4回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第5回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第6回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第7回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第8回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第9回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第10回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第11回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第12回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第13回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第14回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	『耳囊』（みみぶくろ、岩波文庫版）を読む。受講者が各自興味ある1条を選び、調査・報告する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	あらかじめ受講者にテキストのページを指定しておきますので、該当する箇所を辞書や関連図書で事前に調べておいてください。
テキスト	プリントを配布
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	『耳囊』は、近世後期の幕府の役人が雑話・綺談を集めてまとめたもので、当時の庶民や武士の生活感情をうかがうことができる史料です。ぜひ、積極的に授業に参加して、史料のなかから面白いテーマを見つけてください。私も、みなさんが質問や発言しやすくなる環境をつくっていきたいと考えています。
評価方法	期末レポート50%、授業での報告50%
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史講読4B（30340）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
布施 賢治			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	日本近代史の基本的な史料の講読を通じて、近代史の政治・社会・文化に関する知識を高めることを目標とする。		
授業計画	第1回	講読4Bの授業の進め方の解説	
	第2回	講読4Bで読む史料の解説（大正期・昭和期の史料を読みます）	
	第3回	受講生による報告と質疑応答	
	第4回	受講生による報告と質疑応答	
	第5回	受講生による報告と質疑応答	
	第6回	受講生による報告と質疑応答	
	第7回	受講生による報告と質疑応答	
	第8回	受講生による報告と質疑応答	
	第9回	受講生による報告と質疑応答	
	第10回	受講生による報告と質疑応答	
	第11回	受講生による報告と質疑応答	
	第12回	受講生による報告と質疑応答	
	第13回	受講生による報告と質疑応答	
	第14回	受講生による報告と質疑応答	
	第15回	まとめ	
授業概要	演習形式		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	文献研究やアカデミックプレゼンテーションの準備を自主的に進めておくこと。		
テキスト	該当史料のプリントを配布します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	わかりやすい授業を心がけていきます。疑問点や質問は随時受け付けます。		
評価方法	授業への参加度（50％）と担当する報告レジュメの内容（50％）。		
参考文献			
備考			

講義科目名称：日本史講読5B（30350）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
山田 彩起子			

授業のテーマ及び到達目標	中世社会を理解するために、当該期の史料の読解力をつけることを目指します。この授業で読む『明月記』の記主藤原定家は歌人として有名ですが、『明月記』の内容は、和歌のことだけでなく、宮中での儀礼や日々の暮らしのことなど盛りだくさんです。また、女房として宮仕えしていた姉妹や娘についての記述も見られるため、『明月記』は当該期の女房について研究する上でも大変貴重な史料です。
授業計画	<p>第1回 『明月記』およびその読解についてのガイダンス</p> <p>第2回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第3回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第4回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第5回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第6回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第7回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第8回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第9回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第10回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第11回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第12回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第13回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第14回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第15回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p>
授業概要	鎌倉時代の歌人藤原定家の日記『明月記』を輪読します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	輪読担当箇所以外の記事にも予め目を通しておくこと。
テキスト	『翻刻 明月記』より、輪読箇所をコピーして配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	内容理解のために、事典や辞書をこまめに引く習慣を身につけましょう。学習方法等、不明なことについては随時質問を受け付けます。
評価方法	授業での報告50%、期末レポート50%
参考文献	明月記研究会編『明月記研究提要』（八木書店、2006年）
備考	

講義科目名称：日本史講読6B（30360）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
原 淳一郎			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	史料を音読し慣れることで史料読解力を高める。また使用する史料を手掛かりにして、日本の宗教史・文化史などへの理解も深める。
授業計画	<p>第1回 「旅行用心集」の原文による輪読</p> <p>第2回 「旅行用心集」の原文による輪読</p> <p>第3回 「旅行用心集」の原文による輪読</p> <p>第4回 「旅行用心集」の原文による輪読</p> <p>第5回 「旅行用心集」の原文による輪読</p> <p>第6回 「旅行用心集」の原文による輪読</p> <p>第7回 「旅行用心集」の原文による輪読</p> <p>第8回 「旅行用心集」の原文による輪読</p> <p>第9回 「成田道中膝栗毛」の輪読</p> <p>第10回 「成田道中膝栗毛」の輪読</p> <p>第11回 「伊勢物語」の輪読</p> <p>第12回 「伊勢物語」の輪読</p> <p>第13回 「東海道名所記」の輪読</p> <p>第14回 「東海道名所記」の輪読</p> <p>第15回 「東海道名所記」の輪読</p>
授業概要	『旅行用心集』のほか旅行史に関連する史料をもとに、毎回受講生による輪読および関連する課題報告（要レジュメ作成）をもとに授業を進めます。少人数であれば、各自の担当箇所を決めて、語句説明・現代語訳まで行ってもらう予定です。（現在の予定では、『旅行用心集』のほか『成田道中膝栗毛』『伊勢物語（東下りの段）』『東関紀行』『笈の小文』『野ざらし紀行』等の紀行文、『東海道名所記』『東海道中膝栗毛』、『東海道名所図会』など東海道関連の諸書を扱う予定です）
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	予習・復習をしてきてください。
テキスト	授業のなかで配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	大半はくずし字のテキストを使用しますので、しっかりと予習をしてきてください。
評価方法	輪読（予習の有無）、課題報告の2点で評価します。
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史特殊研究1A (30410)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
吉田 歆			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	古代史の多様な文献史料にふれるとともに、古代の政治・社会・地域・文化についての理解を深める。あわせて古代史料の調査方法を身につけることを目標とする。
授業計画	<p>第1回 律令の編纂について解説</p> <p>第2回 受講者による報告 1</p> <p>第3回 受講者による報告 2</p> <p>第4回 受講者による報告 3</p> <p>第5回 受講者による報告 4</p> <p>第6回 受講者による報告 5</p> <p>第7回 受講者による報告 6</p> <p>第8回 受講者による報告 7</p> <p>第9回 受講者による報告 8</p> <p>第10回 受講者による報告 9</p> <p>第11回 受講者による報告 1 0</p> <p>第12回 受講者による報告 1 1</p> <p>第13回 受講者による報告 1 2</p> <p>第14回 受講者による報告 1 3</p> <p>第15回 受講者による報告 1 4</p>
授業概要	日本思想大系本『律令』を読む。分担して担当者を決め、ゼミ形式で行う。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	該当する史料について、予め読み理解すること。
テキスト	日本思想大系本『律令』（コピーして配布する）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	古代史料の読み方、調べ方を身につけてもらいたい。 なお、「日本史特殊研究1B」「日本史演習1A・B」とあわせて受講すること。
評価方法	積極的な授業への参加度（50%）、報告（50%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史特殊研究2A（30420）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
菌部 寿樹			

授業のテーマ及び到達目標	中世史に対する深い理解を得ること。		
授業計画	第1回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論 『吾妻鏡』を輪読します。	
	第2回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第3回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第4回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第5回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第6回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第7回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第8回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第9回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第10回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第11回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第12回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第13回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第14回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第15回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
授業概要	中世社会史に関する主要な史料を、ゼミ形式で解読し考察します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	講義前後に『吾妻鏡』（新訂増補国史大系）の当該箇所を読み込んで、理解を深めて下さい。		
テキスト	『吾妻鏡』（新訂増補国史大系）のコピーを配付します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	中世史の面白さを、より深く知ってほしいと思います。また、調査研究することの難しさ・楽しさ、そして発見することの喜びを味わってください。 ゼミ形式なので、受講生の積極的な発言を期待します。教員としても、受講生が発言しやすいように工夫したいと思います。		
	日本史演習2Aと密接に関連させて授業をしますので、あわせて受講してください。		
評価方法	平常点。講読分担箇所の調査・解読の状況や、ゼミ討論への取り組みなどを評価します。		
参考文献	『吾妻鏡必携』（吉川弘文館、2008年）など		
備考			

講義科目名称：日本史特殊研究3A (30430)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
小林 文雄			

授業のテーマ及び到達目標	1. 近世史料の読解方法を修得する。 2. 近世史の研究方法を身につける
授業計画	<p>第1回 近世史料についての解説</p> <p>第2回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第3回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第4回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第5回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第6回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第7回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第8回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第9回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第10回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第11回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第12回 史跡見学・調査</p> <p>第13回 史跡見学・調査</p> <p>第14回 史跡見学・調査</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	受講生各自が関心を持つ近世史料を選び、それについて調査・報告する。1～2回、史跡見学・調査を取り入れる。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	あらかじめ受講者にテキストのページを指定しておきますので、該当する箇所を辞書や関連図書で事前に調べておいてください。
テキスト	受講生の関心に合わせて決めたいと思います。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	教室での授業が中心となりますが、現地を歩いて学ぶことも大切です。古地図を片手に、できるだけ現地を歩く機会を持ちたいと思います。なお、「日本史特殊研究3B」、「日本史演習3A」、「日本史演習3B」と連動させた授業を行いますので、あわせて受講してください。
評価方法	授業での報告60%、討論への参加度40%
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史特殊研究4A（30440）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
布施 賢治			

授業のテーマ及び到達目標	日本近代史に関する史料の講読を通じて、日本近代史の諸問題に対する理解を深める。		
授業計画	第1回	テキストの佐賀藩士牟田文之助の幕末期における剣術修業日記である『諸国廻歴日録』（東北地方修業部分）の解説	
	第2回	幕末維新期の武士の武術修業と諸藩の受入れ体制の問題、武術の他流試合が幕末維新期の政治に与えた影響の解説	
	第3回	受講生による報告と質疑応答（水戸藩～仙台藩まで）	
	第4回	受講生による報告と質疑応答（水戸藩～仙台藩まで）	
	第5回	受講生による報告と質疑応答（水戸藩～仙台藩まで）	
	第6回	受講生による報告と質疑応答（水戸藩～仙台藩まで）	
	第7回	受講生による報告と質疑応答（水戸藩～仙台藩まで）	
	第8回	受講生による報告と質疑応答（水戸藩～仙台藩まで）	
	第9回	受講生による報告と質疑応答（水戸藩～仙台藩まで）	
	第10回	受講生による報告と質疑応答（水戸藩～仙台藩まで）	
	第11回	受講生による報告と質疑応答（水戸藩～仙台藩まで）	
	第12回	受講生による報告と質疑応答（水戸藩～仙台藩まで）	
	第13回	受講生による報告と質疑応答（水戸藩～仙台藩まで）	
	第14回	受講生による報告と質疑応答（水戸藩～仙台藩まで）	
	第15回	まとめ	
授業概要	演習形式		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	文献研究やアカデミックプレゼンテーションの準備を自主的に進めておくこと。		
テキスト	プリント等を配布します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	日本史特殊研究4B、日本史演習4A・4Bと関連して授業を行うので、あわせて受講してください。		
評価方法	授業への参加度（50%）と担当する報告レジュメの内容（50%）。		
参考文献			
備考			

講義科目名称：日本史特殊研究5A (30450)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
山田 彩起子			

授業のテーマ及び到達目標	この授業で読む『玉葉』の記主藤原兼実は、摂政・関白として貴族社会の頂点に立ち、娘を天皇に嫁がせました。兼実はその婚姻儀礼や立后(皇后の地位に就くこと)儀礼について『玉葉』に詳細に記録しています。これらの記録を読みながら、当該期の后妃の位置づけや宮廷儀礼への理解を深めることを目指します。		
授業計画	第1回	『玉葉』およびその読解についてのガイダンス	
	第2回	受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説	
	第3回	受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説	
	第4回	受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説	
	第5回	受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説	
	第6回	受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説	
	第7回	受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説	
	第8回	受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説	
	第9回	受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説	
	第10回	受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説	
	第11回	受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説	
	第12回	受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説	
	第13回	受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説	
	第14回	受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説	
	第15回	受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説	
授業概要	平安時代末期～鎌倉時代初期の貴族藤原兼実の日記『玉葉』を読みます。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	輪読担当箇所以外の記事にも予め目を通しておくこと。		
テキスト	『図書寮叢刊 玉葉』より、輪読箇所をコピーして配布します。		
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	日本史特殊研究5B、日本史演習5A・5Bと関連する授業になりますので、あわせて受講してください。		
評価方法	授業での報告50%、期末レポート50%		
参考文献			
備考			

講義科目名称：日本史特殊研究1B (30510)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
吉田 歆			

授業のテーマ及び到達目標	古代史の多様な文献史料にふれるとともに、古代の政治・社会・地域・文化についての理解を深める。あわせて古代史料の調査方法を身につけることを目標とする。
授業計画	<p>第1回 古代史史料と律令についての解説</p> <p>第2回 受講者による報告 1</p> <p>第3回 受講者による報告 2</p> <p>第4回 受講者による報告 3</p> <p>第5回 受講者による報告 4</p> <p>第6回 受講者による報告 5</p> <p>第7回 受講者による報告 6</p> <p>第8回 受講者による報告 7</p> <p>第9回 受講者による報告 8</p> <p>第10回 受講者による報告 9</p> <p>第11回 受講者による報告 1 0</p> <p>第12回 受講者による報告 1 1</p> <p>第13回 受講者による報告 1 2</p> <p>第14回 受講者による報告 1 3</p> <p>第15回 受講者による報告 1 4</p>
授業概要	日本思想大系本『律令』を読む。分担して担当者を決め、ゼミ形式で行う。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	該当する史料について、予め読み理解すること。
テキスト	日本思想大系本『律令』（コピーして配布する）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	古代史料の読み方、調べ方を身につけてもらいたい。 なお、「日本史特殊研究 1 A」「日本史演習 1 A・B」とあわせて受講すること。
評価方法	積極的な授業への参加度（50%）、報告（50%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史特殊研究2B（30520）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
菌部 寿樹			

授業のテーマ及び到達目標	中世史に対する深い理解を得ること。		
授業計画	第1回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論 『吾妻鏡』を輪読します。	
	第2回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第3回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第4回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第5回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第6回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第7回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第8回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第9回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第10回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第11回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第12回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第13回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第14回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第15回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
授業概要	中世社会史に関する主要な史料を、ゼミ形式で解読し考察します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	講義前後に『吾妻鏡』（新訂増補国史大系）の当該箇所を読み込んで、理解を深めて下さい。		
テキスト	『吾妻鏡』（新訂増補国史大系）のコピーを配付します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	中世史の面白さを、より深く知ってほしいと思います。また、調査研究することの難しさ・楽しさ、そして発見することの喜びを味わってください。 ゼミ形式なので、受講生の積極的な発言を期待します。教員としても、受講生が発言しやすいように工夫したいと思います。 日本史演習2Bと密接に関連させて授業をしますので、あわせて受講してください。		
評価方法	平常点。 講読分担箇所の調査・解読の状況や、ゼミ討論への取り組みなどを評価します。		
参考文献	『吾妻鏡必携』（吉川弘文館、2008年）など		
備考			

講義科目名称：日本史特殊研究3B（30530）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
小林 文雄			

授業のテーマ及び到達目標	1. 近世史料の読解力を高め、近世史についての理解を深める。 2. 史料調査の方法を身につける
授業計画	<p>第1回 近世史料についての解説</p> <p>第2回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第3回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第4回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第5回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第6回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第7回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第8回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第9回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第10回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第11回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第12回 史料整理、撮影方法の解説</p> <p>第13回 史料整理、撮影方法の解説</p> <p>第14回 史料整理、撮影方法の解説</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	受講生各自が関心を持つ近世史料を選び、それについて調査・報告する。1～2回程度、史料調査の方法について講義し、史料整理、撮影などを体験する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	あらかじめ受講者にテキストのページを指定しておきますので、該当する箇所を辞書や関連図書で事前に調べておいてください。
テキスト	受講生の関心に合わせて決めたいと思います。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	教室での授業が中心となります。希望ですが、実際の史料調査にも出かけることができれば、と考えています。なお、「日本史特殊研究3A」、「日本史演習3A」、「日本史演習3B」と連動させた授業を行いますので、あわせて受講してください。
評価方法	授業での報告60%、討論への参加度40%
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史特殊研究4B（30540）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
布施 賢治			

授業のテーマ及び到達目標	日本近代史に関する史料の講読を通じて、日本近代史の諸問題に対する理解を深める。		
授業計画	第1回	テキストの佐賀藩士牟田文之助の幕末期における剣術修業日記である『諸国廻歴日録』（東北地方修業部分）の解説	
	第2回	幕末維新期の武士の武術修業と諸藩の受入れ体制の問題、武術の他流試合が幕末維新期の政治に与えた影響の解説	
	第3回	受講生による報告と質疑応答（秋田藩から新発田藩まで）	
	第4回	受講生による報告と質疑応答（秋田藩から新発田藩まで）	
	第5回	受講生による報告と質疑応答（秋田藩から新発田藩まで）	
	第6回	受講生による報告と質疑応答（秋田藩から新発田藩まで）	
	第7回	受講生による報告と質疑応答（秋田藩から新発田藩まで）	
	第8回	受講生による報告と質疑応答（秋田藩から新発田藩まで）	
	第9回	受講生による報告と質疑応答（秋田藩から新発田藩まで）	
	第10回	受講生による報告と質疑応答（秋田藩から新発田藩まで）	
	第11回	受講生による報告と質疑応答（秋田藩から新発田藩まで）	
	第12回	受講生による報告と質疑応答（秋田藩から新発田藩まで）	
	第13回	受講生による報告と質疑応答（秋田藩から新発田藩まで）	
	第14回	受講生による報告と質疑応答（秋田藩から新発田藩まで）	
	第15回	まとめ	
授業概要	演習形式		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	文献研究やアカデミックプレゼンテーションの準備を自主的に進めておくこと。		
テキスト	プリント等を配布します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	日本史特殊研究4A、日本史演習4A・4Bと関連して授業を行うので、あわせて受講してください。		
評価方法	授業への参加度（50%）と担当する報告レジュメの内容（50%）。		
参考文献			
備考			

講義科目名称：日本史特殊研究5B（30550）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
山田 彩起子			

授業のテーマ及び到達目標	この授業で読む『玉葉』の記主藤原兼実は、摂政・関白として貴族社会の頂点に立ち、娘を天皇に嫁がせました。兼実はその婚姻儀礼や立后（皇后の地位に就くこと）儀礼について『玉葉』に詳細に記録しています。これらの記録を読みながら、当該期の后妃の位置づけや宮廷儀礼への理解を深めることを目指します。		
授業計画	第1回	『玉葉』およびその読解についてのガイダンス	
	第2回	受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説	
	第3回	受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説	
	第4回	受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説	
	第5回	受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説	
	第6回	受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説	
	第7回	受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説	
	第8回	受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説	
	第9回	受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説	
	第10回	受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説	
	第11回	受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説	
	第12回	受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説	
	第13回	受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説	
	第14回	受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説	
	第15回	受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説	
授業概要	平安時代末期～鎌倉時代初期の貴族藤原兼実の日記『玉葉』を読みます。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	輪読担当箇所以外の記事にも予め目を通しておくこと。		
テキスト	『図書寮叢刊 玉葉』より、輪読箇所をコピーして配布します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	日本史特殊研究5A、日本史演習5A・5Bと関連する授業になりますので、あわせて受講してください。		
評価方法	授業での報告50%、期末レポート50%		
参考文献			
備考			

講義科目名称：日本史演習1A (30610)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
吉田 歆			

授業のテーマ及び到達目標	日本古代史の研究はさまざまな切り口から行うことが可能である。受講生個人個人の関心に即して、各人が史料を調査し、考えをまとめ、発表することで、古代史研究に対する能力を高めることを目標とする。
授業計画	<p>第1回 古代史の研究論文の読み方と整理の仕方について解説</p> <p>第2回 論文報告 1</p> <p>第3回 論文報告 2</p> <p>第4回 論文報告 3</p> <p>第5回 論文報告 4</p> <p>第6回 論文報告 5</p> <p>第7回 論文報告 6</p> <p>第8回 論文報告 7</p> <p>第9回 論文報告 8</p> <p>第10回 論文報告 9</p> <p>第11回 論文報告 1 0</p> <p>第12回 論文報告 1 1</p> <p>第13回 論文報告 1 2</p> <p>第14回 論文報告 1 3</p> <p>第15回 論文報告 1 4</p>
授業概要	古代史論文の輪読します。論文の読み方などを訓練する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	指定された論文などを予め読みまとめること。
テキスト	受講生が用意するレジュメ。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	受講生諸君が主体的に関わっていかなければ成り立たない演習である。真剣に取り組むことを通じて、歴史を調べることの楽しさを味わってもらいたい。 なお、「日本史演習 1 B」「日本史特殊研究 1 A・B」とあわせて受講すること。
評価方法	積極的な授業への参加度（50%）、報告（50%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史演習2A (30620)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
藺部 寿樹			

授業のテーマ及び到達目標	中世史の研究文献の講読及び学生各人の卒業研究の報告を通して、各自の中世史研究に対する能力を高めること。		
授業計画	第1回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論 学生各人の卒業研究に関する数回の発表とそれに対する討論により、授業をすすめます。	
	第2回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第3回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第4回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第5回	卒論研究中間報告会 最初の中間報告会です。課題意識や参考文献、史料についての見通しを確認します。	
	第6回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第7回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第8回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第9回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第10回	卒論研究中間報告会 これまでの作業を総括して、今後の作業についての展望を得ます。	
	第11回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第12回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第13回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第14回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第15回	卒論研究中間報告会 前期最後の報告会です。夏休みにどのような作業をするのかを確定します。	
授業概要	学生各人の卒業研究に関する報告と討論。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業後、ゼミ生の卒業研究の内容をより深く理解するとともに、自己の卒業研究の進展について深く考察して下さい。		
テキスト	学生各自の発表報告レジュメ。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	歴史を調査研究することにはかなりの困難がともないますが、それ故にこそ、事実関係を発見したり再評価できたときの喜びはひとしおです。先輩や友人達の調査研究のありかたに学びつつ、自己の卒業研究をすすめながら、調査活動の力を養っていきます。 ゼミ形式なので、受講生の積極的な発言を期待します。教員としても、受講生が発言しやすいように工夫したいと思います。 日本史特殊研究2Aと密接に関連させて授業をしますので、あわせて受講してください。		
評価方法	平常点。ゼミ討論への取り組みなどを評価します。		
参考文献	類似の研究課題を扱った先輩の卒業論文をまず読んでみて下さい。それから相談の上、参考文献を指定していきます。		
備考			

講義科目名称：日本史演習3A (30630)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
小林 文雄			

授業のテーマ及び到達目標	1. 近世史の研究文献の輪読をとおして、学説を理解する能力を高める 2. 調べたことをまとめ、報告することをおして、自分の考えを伝える能力を高める。
授業計画	<p>第1回 受講者の関心に合わせて、第1回目の授業で、使用するテキストを相談する。</p> <p>第2回 文献の読み方についての解説</p> <p>第3回 研究の背景についての解説</p> <p>第4回 受講者各自の報告と討論</p> <p>第5回 受講者各自の報告と討論</p> <p>第6回 受講者各自の報告と討論</p> <p>第7回 受講者各自の報告と討論</p> <p>第8回 受講者各自の報告と討論</p> <p>第9回 受講者各自の報告と討論</p> <p>第10回 受講者各自の報告と討論</p> <p>第11回 受講者各自の報告と討論</p> <p>第12回 受講者各自の報告と討論</p> <p>第13回 受講者各自の報告と討論</p> <p>第14回 受講者各自の報告と討論</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	学生の報告・討論を中心に授業をすすめる。毎回、1名ないし数名の報告者を立てて、論文の内容を要約し、疑問点などを発表してもらう。その後、受講生全員による質疑応答、討論に入る。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	あらかじめ受講者にテキストのページを指定しておきますので、該当する箇所を辞書や関連図書で事前に調べておいてください。
テキスト	受講生の関心に依じて選定する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	学生が積極的に質問や発言できるよう心掛けたいと思います。なお、「日本史演習3B」、「日本史特殊研究3A」、「日本史特殊研究3B」と関連させた授業を行うので、あわせて受講してください。
評価方法	授業での報告60%、討論への参加度40%
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史演習4A (30640)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
布施 賢治			

授業のテーマ及び到達目標	日本近代史に関する研究論文の講読と、受講生の卒業研究の報告を通じて、受講生各人の日本近代史に対する研究能力を高める。
授業計画	<p>第1回 高見順『敗戦日記』『木戸幸一日記』の特徴と解説</p> <p>第2回 卒業研究を作成する上での留意点などの解説</p> <p>第3回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第4回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第5回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第6回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第7回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第8回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第9回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第10回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第11回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第12回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第13回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第14回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	演習形式
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	文献研究やアカデミックプレゼンテーションの準備を自主的に進めておくこと。
テキスト	プリント等を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	日本史演習4B、日本史特殊研究4A・4Bと関連して授業を行うので、あわせて受講してください。
評価方法	授業への参加度（50%）と担当する報告レジュメの内容（50%）。
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史演習5A (30650)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
山田 彩起子			

授業のテーマ及び到達目標	中世女性史をテーマに卒業論文作成を目指す学生に指導を行います。研究内容をレジュメにまとめあげて報告し、討論・指導を重ねる中で内容の精度を高め、論文を作成しましょう。
授業計画	<p>第1回 研究報告レジュメ作成方法についてのガイダンス</p> <p>第2回 学生各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第3回 学生各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第4回 学生各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第5回 学生各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第6回 学生各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第7回 学生各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第8回 学生各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第9回 学生各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第10回 学生各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第11回 学生各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第12回 学生各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第13回 学生各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第14回 学生各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第15回 学生各自の研究報告及び討論・指導</p>
授業概要	学生各自の卒論準備研究報告とその討論・指導。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	討論や指導の中で指摘された問題点の解決に、早目に取り組みましょう。
テキスト	学生各自の報告レジュメ
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	積極的に質問や指摘をして討論を盛り上げて下さい。なお、日本史演習5B、日本史特殊研究5A・5Bと関連する授業を行うので、あわせて受講してください。
評価方法	授業での報告70%、討論への参加度30%
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史演習1B (30710)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択
担当教員			
吉田 歆			

授業のテーマ及び到達目標	日本古代史の研究はさまざまな切り口から行うことが可能である。受講生個人個人の関心に即して、各人が史料を調査し、考えをまとめ、発表することで、古代史研究に対する能力を高めることを目標とする。
授業計画	<p>第1回 論文報告 1</p> <p>第2回 論文報告 2</p> <p>第3回 論文報告 3</p> <p>第4回 論文報告 4</p> <p>第5回 論文報告 5</p> <p>第6回 論文報告 6</p> <p>第7回 論文報告 7</p> <p>第8回 論文報告 8</p> <p>第9回 論文報告 9</p> <p>第10回 論文報告 1 0</p> <p>第11回 論文報告 1 1</p> <p>第12回 論文報告 1 2</p> <p>第13回 論文報告 1 3</p> <p>第14回 論文報告 1 4</p> <p>第15回 論文報告 1 5</p>
授業概要	古代史論文の輪読します。論文の読み方などを訓練する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	指定された論文などを予め読みまとめること。
テキスト	受講生が用意するレジュメ。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	受講生諸君が主体的に関わっていかなければ成り立たない演習である。真剣に取り組むことを通じて、歴史を調べることの楽しさを味わってもらいたい。
評価方法	積極的な授業への参加度（50%）、報告（50%）
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択
担当教員			
藺部 寿樹			

授業のテーマ及び到達目標	中世史の研究文献の講読及び学生各人の卒業研究の報告を通して、各自の中世史研究に対する能力を高めること。		
授業計画	第1回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論 学生各人の卒業研究に関する数回の発表とそれに対する討論により、授業をすすめます。	
	第2回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第3回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第4回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第5回	卒業研究中間報告会 夏休みにおける作業結果をまとめて、目次立ての作業に入ります。	
	第6回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第7回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第8回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第9回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第10回	卒業研究中間報告会 卒業研究最後の中間報告会です。ここで仕上がり状況を最終確認します。	
	第11回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第12回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第13回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第14回	卒業研究最終報告会 1 卒業研究の全体像を各自が報告し討論します。	
	第15回	卒業研究最終報告会 2 卒業研究の全体像を各自が報告し討論します。	
授業概要	学生各人の卒業研究に関する報告と討論。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業後、ゼミ生の卒業研究の内容をより深く理解するとともに、自己の卒業研究の進展について深く考察して下さい。		
テキスト	学生各自の発表報告レジュメ。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	歴史を調査研究することにはかなりの困難がともないますが、それ故にこそ、事実関係を発見したり再評価できたときの喜びはひとしおです。先輩や友人達の調査研究のありかたに学びつつ、自己の卒業研究をすすめながら、調査活動の力を養っていきます。 ゼミ形式なので、受講生の積極的な発言を期待します。教員としても、受講生が発言しやすいように工夫したいと思います。 日本史特殊研究2Bと密接に関連させて授業をしますので、あわせて受講してください。		
評価方法	平常点。ゼミ討論への取り組みなどを評価します。		
参考文献	類似の研究課題を扱った先輩の卒業論文をまず読んでみて下さい。それから相談の上、参考文献を指定していきます。		
備考			

講義科目名称：日本史演習3B (30730)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択
担当教員			
小林 文雄			

授業のテーマ及び到達目標	1. 卒業研究の調査・報告をとおして、自身の考えを的確に伝える能力を高める。 2. 卒業研究論集を作成する。
授業計画	第1回 卒業研究の進め方についてのガイダンス 第2回 受講者による報告と討論 第3回 受講者による報告と討論 第4回 受講者による報告と討論 第5回 受講者による報告と討論 第6回 受講者による報告と討論 第7回 受講者による報告と討論 第8回 受講者による報告と討論 第9回 受講者による報告と討論 第10回 受講者による報告と討論 第11回 受講者による報告と討論 第12回 卒業研究論集の作成 第13回 卒業研究論集の作成 第14回 卒業研究論集の作成 第15回 卒業研究論集の作成
授業概要	学生の報告・討論を中心に授業をすすめる。毎回、1名ないし数名の報告者を立てて、論文の内容を要約し、疑問点などを発表してもらう。その後、受講生全員による質疑応答、討論に入る。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	あらかじめ受講者にテキストのページを指定しておきますので、該当する箇所を辞書や関連図書で事前に調べておいてください。
テキスト	受講者の関心に応じて選定する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「日本史演習3A」、「日本史特殊研究3A」、「日本史特殊研究3B」と関連させた授業を行うので、あわせて受講してください。また、卒業研究論集の編集作業を通じて、共同で新しい作品を作り出す楽しさを味わってください。
評価方法	授業での報告60%、討論への参加度40%
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史演習4B（30740）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択
担当教員			
布施 賢治			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	日本近代史に関する研究論文の講読と、受講生の卒業研究の報告を通じて、受講生各人の日本近代史に対する研究能力を高める。
授業計画	<p>第1回 高見順『敗戦日記』『木戸幸一日記』の特徴と解説</p> <p>第2回 卒業研究を作成する上での留意点などの解説</p> <p>第3回 受講生による卒業研究中間報告</p> <p>第4回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第5回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第6回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第7回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第8回 受講生による卒業研究中間報告</p> <p>第9回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第10回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第11回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第12回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第13回 受講生による卒業研究最終報告</p> <p>第14回 受講生による卒業研究最終報告</p> <p>第15回 受講生による卒業研究最終報告</p>
授業概要	演習形式
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	文献研究やアカデミックプレゼンテーションの準備を自主的に進めておくこと。
テキスト	プリント等を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	日本史演習4A、日本史特殊研究4A・4Bと関連して授業を行うので、あわせて受講してください。
評価方法	授業への参加度（50%）と担当する報告レジュメの内容（50%）。
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史演習5B (30750)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択
担当教員			
山田 彩起子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	中世女性史をテーマに卒業論文作成を目指す学生に指導を行います。研究内容をレジュメにまとめあげて報告し、討論・指導を重ねる中で内容の精度を高め、論文を作成しましょう。
授業計画	<p>第1回 卒論作成方法についてのガイダンス</p> <p>第2回 学生各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第3回 学生各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第4回 学生各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第5回 学生各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第6回 学生各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第7回 学生各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第8回 学生各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第9回 学生各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第10回 学生各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第11回 学生各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第12回 学生各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第13回 学生各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第14回 学生各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第15回 学生各自の研究報告及び討論・指導</p>
授業概要	学生各自の研究報告及び討論・指導。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	討論や指導の中で指摘された問題点の解決に、早目に取り組みましょう。
テキスト	学生各自の報告レジュメ
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	積極的に質問や指摘をして討論を盛り上げて下さい。なお、日本史演習5A、日本史特殊研究5A・5Bと関連する授業を行うので、あわせて受講してください
評価方法	授業での報告70%、討論への参加度30%
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史演習6B（30760）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択
担当教員			
原 淳一郎			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	卒業論文作成のための指導を行う。		
授業計画	第1回	夏季休暇中の研究の進展の確認	
	第2回	受講生の卒業研究報告	
	第3回	受講生の卒業研究報告	
	第4回	受講生の卒業研究報告	
	第5回	受講生の卒業研究報告	
	第6回	受講生の卒業研究報告	
	第7回	受講生の卒業研究報告	
	第8回	受講生の卒業研究報告	
	第9回	受講生の卒業研究報告	
	第10回	受講生の卒業研究報告	
	第11回	受講生の卒業研究報告	
	第12回	受講生の卒業研究報告	
	第13回	受講生の卒業研究報告	
	第14回	受講生の卒業研究報告	
	第15回	受講生の卒業研究の個別相談	
授業概要	受講生それぞれの卒業論文執筆にむけた準備報告をもとに討論を行う。 1つの報告に対して、全員が必ず発言する 適宜、受講生の状況を見て、論文執筆の基礎的事項の教示、論文の輪読をおこなうことがある。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	しっかりと時間を掛けて、レジュメの準備をしてください。		
テキスト	特になし。必要があれば配布します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	①討論では、あまり周りの空気を読み過ぎず、積極的に発言してください。その方が楽しいはずです。 ②計画的に卒業論文執筆を進めてください。悩んだら些細な質問でも構いませんので、是非相談に来てください。 ③受講生の特性を見て、個別に指示を与える場合があります。その場合は、できるだけやり遂げるようにしてください。		
評価方法	2回程度の卒業論文報告の内容と、ゼミ内での質疑応答の様子で決めます。		
参考文献			
備考			

講義科目名称：女性史1（30810）

授業コード：

英文科目名称：-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
佐藤 和賀子			
開放(教養)			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	テーマ：古代から近世までの女性の歴史を7つのテーマ(政治・家族・労働・教育・生と性・自己表現・争いと平和)から学ぶ。 到達目標：古代から近世までの女性の歴史について基本的な知識を理解できる。現代の女性が直面している諸問題を歴史的に考察することができる。
授業計画	<p>第1回 はじめに</p> <p>第2回 政治（古代・中世）</p> <p>第3回 政治（近世）</p> <p>第4回 家族（古代・中世）</p> <p>第5回 家族（近世）</p> <p>第6回 労働（古代・中世）</p> <p>第7回 労働（近世）</p> <p>第8回 教育（古代・中世）</p> <p>第9回 教育(近世)</p> <p>第10回 生と性（古代・中世）</p> <p>第11回 生と性（近世）</p> <p>第12回 自己表現（古代・中世）</p> <p>第13回 自己表現（近世）</p> <p>第14回 争いと平和（古代・中世）</p> <p>第15回 争いと平和（近世）</p>
授業概要	古代から近世までの女性の歴史を7つのテーマを設定して学ぶ。テーマに関連する史料を授業中に読むが、史料の解説ではなく、史料を素材にして考え、自分の考えを表現することを重視するため、史料は現代語訳を主に使う。映像資料、絵画資料なども活用し、多角的な資料からテーマをあつかう。地域女性史を重視し米沢藩の女性もとりあげる。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	休日等を利用して博物館、美術館、資料館などを積極的に利用すること。
テキスト	毎時間、資料プリントを配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	授業では、最初にテーマに関連する時代の概説を行い、高校や短大で日本史を学習していない受講者も理解できるように授業を進める。
評価方法	試験（70%）、レポート（30%）
参考文献	授業中に随時紹介する。
備考	

講義科目名称：考古学概説（30830）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
佐藤 庄一			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	考古学は、過去の人が残したのから当時の生活や歴史を考える学問である。昔の生活の跡が何を物語るのか。本講義では、日本考古学の最新の内容と成果を、発掘された遺跡や遺物を通して説明する。ロマンと魅力にあふれる考古学を積極的に学び、現在の自分に得るところを吸収していただきたい。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション「考古学のおもしろさ」</p> <p>第2回 石器と土器づくりの始まり（旧石器時代～縄文時代早期）</p> <p>第3回 考古学はどんな方法で、何がわかるか？</p> <p>第4回 縄文時代の人々とくらし</p> <p>第5回 農耕社会の始まりと弥生文化</p> <p>第6回 古墳時代と国家の誕生</p> <p>第7回 うきたむ郡の設置と出羽国（飛鳥時代～奈良時代）</p> <p>第8回 米沢市埋蔵文化財資料室の見学</p> <p>第9回 平安時代と出羽国</p> <p>第10回 武士の社会と考古学（鎌倉時代～南北朝時代）</p> <p>第11回 霊地と霊場と考古学（室町時代）</p> <p>第12回 城館跡と考古学（戦国時代～江戸時代）</p> <p>第13回 発掘調査とは何か？</p> <p>第14回 考古学と文化財の保護</p> <p>第15回 今後の皆さんに期待するもの</p>
授業概要	人々の営みが始まった旧石器時代から現代までの日本の歩みを、毎回パワー・ポイントを用いて、映像資料を取り入れながらわかりやすく講義する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	定期的の小課題(レポート)を課すので、期日までに取り組み提出すること。
テキスト	講義には定まったテキストを用いず、要点や主な映像資料を載せたレジメを毎回配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	考古学はいまや歴史を学ぶ者にとって必須の学問である。歴史を新たな視点から考える面白さをぜひ感じてもらいたい。 講義資料は毎回10ページだったが、スライドにしたものを多くという要望があったので少し頁数を多くしたい。
評価方法	授業への出席度・平常の講義及び野外学習における学習と態度、期末試験の考査。
参考文献	
備考	

講義科目名称：民俗学概説(日) (30840)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
岩鼻 通明			
開放(教養)			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	この講義では、韓国の民俗文化をテーマとして取り上げ、その諸問題について、具体的事例を紹介しながら講義を進める。講義に際してはビデオ教材を活用する。		
授業計画	第1回	民俗学とは	
	第2回	民俗学の歩み	
	第3回	比較民俗学	
	第4回	韓国と儒教社会	
	第5回	韓国の親族組織	
	第6回	韓国の祖先祭祀	
	第7回	韓国の通過儀礼	
	第8回	韓国の年中行事	
	第9回	韓国の衣食住	
	第10回	韓国の民間信仰	
	第11回	韓国の民俗芸能	
	第12回	韓国の生業	
	第13回	韓国の宗教	
	第14回	韓国の伝統的町並み	
	第15回	日本・朝鮮半島・琉球列島の比較民俗	
授業概要	民俗学で扱う内容のうち、本講義では韓国における民俗文化を、日本の民俗文化と比較しながら講義を展開する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	各地の博物館や資料館には、民具などの民俗学に関わる資料などが、しばしば展示されています。休日を利用して、それらの展示を観覧する習慣を身につけてください。		
テキスト	特に使用しないが、安宇植『アラン岬の旅人たち 聞き書朝鮮民衆の世界』平凡社、岩鼻通明『韓国・伝統文化のたび』ナカニシヤ出版、に加えて、付属図書館所蔵の民俗学関係の図書を参照のこと。		
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	自己の故郷の年中行事や祭礼などに関心を持ってほしい。柳田国男らの基本的な文献は文庫本で出ている。板書は、なるべく整然と見やすい大きな文字で書くことにしたい。		
評価方法	講義内容に関連した課題についての文献およびネット検索をふまえたレポート(出典は必ず明示すること)を学期末に提出することで、成績を評価する。		
参考文献			
備考			

講義科目名称：歴史考古学（30850）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
山口 博之			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	「歴史考古学」とは、文献史料が残っている時代を対象に、遺跡・遺物などの発掘資料から考察していく考古学の一分野である。本講義では、文献史料と考古学資料を複眼的に利用しながら国内外の遺跡・遺物について取り上げ、歴史考古学的に思考力を身につけることを目標とする。		
授業計画	第1回	文字と考古学―地面から掘り出された文字	
	第2回	川と考古学―最上川の流通	
	第3回	中世霊場と考古学―天童城と天童伝説	
	第4回	石仏と考古学―スリランカ仏足石と日本	
	第5回	物語と考古学―一首の呪いと物語	
	第6回	山寺立石寺の考古学―霊場への信仰	
	第7回	霊場松島と雄島の考古学―中世墓地と納骨	
	第8回	陶磁器の考古学（1）―中国陶磁器の発達と展開	
	第9回	陶磁器の考古学（2）―中国陶磁器と日本の関わり	
	第10回	陶磁器の考古学（3）―日本産陶磁器の生産と発展	
	第11回	山形城の考古学（1）―発掘成果と新発見から	
	第12回	山形城の考古学（2）―石垣と石材加工技術	
	第13回	出羽国寶幢寺の考古学―山形城下の伝世資料	
	第14回	考古学と世界遺産―文化財保護と活用	
	第15回	まとめと評価	
授業概要	毎回、タイトルの内容について、PPTを使用しながら解り易く解説します。		
実務経験及び授業の内容	埋蔵文化財調査研究実務（山形県埋蔵文化財センター）と文化財行政実務（山形県教育庁文化財課）の経験がある。この経験を活かして歴史考古学の授業を行う。		
時間外学習	土日祝日を利用して、さまざまな博物館・美術館・資料館を見学しに行くこと。		
テキスト	プリントを配付する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	文献史料と考古学資料を中心として歴史像を描くプロセスは、今まで経験していない新しい視点です。考古学から見える広い世界を楽しんでください。		
評価方法	積極的な授業への参加度（50%）、レポート（50%）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：生活文化史（30871）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
小林 文雄			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	当たり前に見える行為・習慣やものの感じ方や感覚などにも、時代や地域による違いがあること、歴史的な変化があることに気づいてもらう。
授業計画	<p>第1回 生活文化史の方法</p> <p>第2回 日本の食事と食膳具－古代～中世</p> <p>第3回 日本の食事と食膳具－近世～近現代</p> <p>第4回 正月の過ごし方</p> <p>第5回 幕末・維新期の音環境と身体の規律化</p> <p>第6回 幕末・維新期の西洋の音</p> <p>第7回 国境を越える音楽 境界をつくる音楽</p> <p>第8回 生活の中の時間規律</p> <p>第9回 近代以前の時間意識と時刻報知システム</p> <p>第10回 明治初年の音読と黙読（1） 近代初期の声の文化</p> <p>第11回 明治初年の音読と黙読（2） 公共空間の変容</p> <p>第12回 江戸時代の遊び（1）</p> <p>第13回 江戸時代の遊び（2）</p> <p>第14回 江戸時代の子ども</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	この講義では、暮らしのなかの「モノ」やしぐさ・習慣に注目することによって、近世から近代にかけてのものの感じ方、感性の変化を追う。講義形式で、音源や映像も活用する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業で取り上げた文献等を図書館で借りて読むようにこころがけてください。
テキスト	プリントを配ります。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	講義形式です。授業の理解度をはかるために、質問用シートを何回か提出してもらいます。
評価方法	期末レポート70%、質問用シートによる評価30%
参考文献	
備考	

講義科目名称：生活文化史2（30870）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
小林 文雄			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1、江戸時代の古文書の読解力を身につける 2、当時の庶民の生活や文化について理解する
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 番付を読む（1）番付とはなにか</p> <p>第3回 番付を読む（2）江戸の芸能</p> <p>第4回 番付を読む（3）さまざまな番付</p> <p>第5回 庶民の一生（1）離縁状を読む</p> <p>第6回 庶民の一生（2）奉公にでるとき</p> <p>第7回 庶民の一生（3）通過儀礼にかかわる記録</p> <p>第8回 村人の文化（1）芝居と相撲</p> <p>第9回 村人の文化（2）祭礼を支える人びと</p> <p>第10回 村人の文化（3）まじない本の世界</p> <p>第12回 村人の文化（4）古い本と暦</p> <p>第13回 村人の文化（5）さまざまな読み物</p> <p>第14回 村人の文化（6）さまざまな楽しみ</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	古文書の読解を通して、江戸時代の庶民生活の諸相を浮き彫りにしたいと思います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	テキストの古文書は毎日少しずつ予習してきてください。トピックに関連する文献も紹介するので、できるだけお読みください。
テキスト	古文書のコピーを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	皆さんの感じ方や考え方に配慮しながら、授業を進めていきたいと思っています。
評価方法	期末レポート（60%）と授業への参加度（40%）で評価します。
参考文献	
備考	

講義科目名称：国際交流史（30880）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
布施 賢治			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日本の開国とその影響について講述し、19世紀日本をとりまいていた国際的環境を理解する。		
授業計画	第1回	「対外関係史」「鎖国」という言葉をめぐって	
	第2回	「外圧」という言葉をめぐって	
	第3回	海外認識の高まり	
	第4回	知識人の対外認識—鎖国論、攘夷論、開国論—	
	第5回	ロシアとの北方紛争	
	第6回	モリソン号事件・アヘン戦争・ペリー来航情報	
	第7回	映像史料をみる ～20世紀 世界は日本をどう見ていたのか～	
	第8回	アメリカの日本開国動機	
	第9回	ペリー派遣の背景	
	第10回	日米和親条約の締結	
	第11回	イギリスとの交渉	
	第12回	ロシア・オランダとの交渉	
	第13回	幕府の積極的開国論と日米修好通商条約の締結	
	第14回	日清戦争の影響	
	第15回	日本の植民地帝国化と日本人の海外進出	
授業概要	講義形式		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	日頃より読書や他の講義の受講を通じて、この授業のテーマについて主体的に考えること。		
テキスト	必要に応じてプリントを配布します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	わかりやすい授業を心がけていきます。疑問点や質問は随時受け付けます。		
評価方法	期末レポート		
参考文献			
備考			

講義科目名称：地理学1（30910）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職必修
担当教員			
藺部 寿樹			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	人文地理学の一分野として、歴史地理学の基礎知識や方法論を修得すること。		
授業計画	第1回	歴史地理学とは何か	
	第2回	日本人の起源論と形質分布（上）	
	第3回	日本人の起源論と形質分布（下）	
	第4回	古代の歴史地理—風土記にみえる古代地名と古墳の分布—	
	第5回	古代の歴史地理—風土記にみえる古代地名と古墳の分布—	
	第6回	気候変動と歴史社会（上）	
	第7回	気候変動と歴史社会（下）	
	第8回	中世の歴史地理—荘園絵図—	
	第9回	日本図と世界図	
	第10回	近世の歴史地理—近世都市「江戸」—（上）	
	第11回	近世の歴史地理—近世都市「江戸」—（下）	
	第12回	日本の歴史地名	
	第13回	近現代の歴史地理—高度経済成長期における日本の変貌—（上）	
	第14回	近現代の歴史地理—高度経済成長期における日本の変貌—（下）	
	第15回	交通の歴史地理	
授業概要	複数の時代を通しての大きな問題や各時代ごとの主要な問題について、具体的に考察します。1～2回の講義で1つのテーマが完結する形で授業をすすめます。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	講義後、講義で示した内容を復習し、さらにレジュメに示した参考文献を読んで学習を拡げて下さい。		
テキスト	プリントや参考資料を配布します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	具体的な問題を通して、歴史地理（学）の面白さを存分に味わってください。受講生の意見を踏まえて授業ができるように、毎テーマ終了後に小アンケートを実施します。		
評価方法	期末レポート（90%）、小アンケート[記名記載]による評価（10%）		
参考文献	藤岡謙二郎編『日本歴史地理総説』総論・先原史編、古代編、中世編、近世編、近代編、吉川弘文館、1975年 有藺正一郎他編『歴史地理調査ハンドブック』、古今書院、2001年 これに加え、個別の講義内容に関する参考文献は、講義中に紹介する。		
備考			

講義科目名称：地理学2（30920）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	2	選択・教職必修
担当教員			
佐野 嘉彦			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	自然地理分野の一分野である気候学と歴史との関係から、現在、大きく取り上げられている温暖化などの環境問題までを学習します。さらに、空間認識の学習として地図の読み方を教えます。これらを通して、自然地理学において大切なスケールというものを学びます。		
授業計画	1	地理学とは－系統地理学と地誌－ 「ニルスのふしぎな旅」から学ぶ地理学	
	2	自然地理学の世界へ－時空間の旅へ－ 時間と空間のスケール 人間が認識できる時間、空間スケール	
	3	自分が存在する場所を考える－地形学入門－	
	4	地図を楽しもう（地図の読図）－旅行に地図は必要か？－ 空中写真からみた町 ー鳥の目でみるー	
	5	空間の認識（地理情報システムについて）－最近の地理学の動向－ コンピュータを使って地図を見る	
	6	歴史学と気象学との出会い－日記からわかる昔の天候－ 昔の人も天気を気にしていた？	
	7	大気環境科学入門－公害から地球の危機まで－ 危機感をあおっているのは誰だ？	
	8	温暖化について－本当に温暖化しているのか？－	
	9	異常気象について－エルニーニョって異常なのか？－ 日本と熱帯との関係を調べる	
	10	環境問題の解決のために－人間の英知は時空間を越えて－	
		その他、半日程度の市内巡検等を計画しております。徒歩が基本です。	
授業概要	自然地理学の基礎的な知識を習得し、その知識の応用として、地図の判読から地域の特性を学ぶ。具体的には、地形学と気候学の2分野から構成される自然地理学の知識を、グローバルスケール（世界）、ローカルスケール（日本各地）から理解し、演習的要素として地形図の判読を通し、知識を定着させる。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業内容の確認の為、レポートを時間外学習として課す。		
テキスト	プリントで配布。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	次のものを持参してください。・定規10cm程度のもので大丈夫です・色鉛筆またはマーカー（4色程度で十分です）		
評価方法	授業への参加度と試験（時間の都合では試験の代わりにレポートになることもあります）		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職必修
担当教員			
菌部 寿樹			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 日本における地誌（学）のありかたやその意義を修得すること。 2. 日本の地理的なありかたについて理解を深めること。
授業計画	<p>第1回 地誌学とは何か。日本における各種の地誌書・紀行文などの紹介 地誌学とは何かを解説します。また日本における各種の地誌書・紀行文などを紹介します。</p> <p>第2回 『史料京都の歴史』社会・文化の輪読とそれに対する指導・討論 『史料京都の歴史』社会・文化を輪読形式で読みます。</p> <p>第3回 『史料京都の歴史』社会・文化の輪読とそれに対する指導・討論</p> <p>第4回 『史料京都の歴史』社会・文化の輪読とそれに対する指導・討論</p> <p>第5回 『史料京都の歴史』社会・文化の輪読とそれに対する指導・討論</p> <p>第6回 『史料京都の歴史』社会・文化の輪読とそれに対する指導・討論</p> <p>第7回 『史料京都の歴史』社会・文化の輪読とそれに対する指導・討論</p> <p>第8回 『史料京都の歴史』社会・文化の輪読とそれに対する指導・討論</p> <p>第9回 『史料京都の歴史』社会・文化の輪読とそれに対する指導・討論</p> <p>第10回 『史料京都の歴史』社会・文化の輪読とそれに対する指導・討論</p> <p>第11回 『史料京都の歴史』社会・文化の輪読とそれに対する指導・討論</p> <p>第12回 『史料京都の歴史』社会・文化の輪読とそれに対する指導・討論</p> <p>第13回 『史料京都の歴史』社会・文化の輪読とそれに対する指導・討論</p> <p>第14回 『史料京都の歴史』社会・文化の輪読とそれに対する指導・討論</p> <p>第15回 『史料京都の歴史』社会・文化の輪読とそれに対する指導・討論</p>
授業概要	地誌学とは、特定の地域空間の地理的個性を体系的に説明・記述することを目的とする学問です。また特定地域の地理を総合的に記述したものが、地誌です。具体的に地誌を輪読しながら、地誌について学びます。今回は京都に関する史料を読みながら、前近代日本の首都であった京都の地域的な特質について考えていきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	講義の前後、『史料 京都の歴史』第5巻の当該箇所について読んでおいて下さい。
テキスト	『史料 京都の歴史』第5巻の当該箇所のコピーを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	地誌（学）に対して、ともすれば無味乾燥な印象をもっているかもしれませんが、しかし、地誌（学）を通して具体的な地域のありかたを考察するのは、たいへん楽しい作業です。輪読形式で授業をすすめますので、積極的に関与（質問・発言など）することを期待しています。
評価方法	期末レポート（80%）、平常点（20%） 平常点とは、輪読の責を果たしたかどうか（輪読の順番の折に出席して指定された箇所の読解をおこなったかどうか）という点に対する評価です。
参考文献	『史料 京都の歴史』第5巻 社会・文化、平凡社、1984年
備考	

講義科目名称：法律学（30940）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
高木 紘一			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	現代社会において法の果たしている重要な機能や役割を、できるだけ具体的な事例を通じて理解することを目標とします。そのために、「法とはなにか」という法律学の最も基本的な問題及び法と裁判に関する基本原則を踏まえたうえで、国家と個人が最も直接的にかかわる刑事裁判の仕組み・内容、課題を通じて、法の意義を考えます。
授業計画	<p>第1回 法とは何か(1)－類概念と種差 －法規範と他の社会規範(風俗・慣習、宗教、道徳)との差異</p> <p>第2回 法とは何か(2) －法の定義(強制力、適用範囲、規範の質)</p> <p>第3回 法源とは何か －法の存在形態(法の存在する姿)を指し、裁判規範となるもの</p> <p>第4回 法の種類 －公法、私法、社会法(近代市民社会の成立とその変化を背景として新しく生まれた法領域)</p> <p>第5回 法と裁判(1) －紛争処理と裁判、裁判の種類・裁判所の組織、裁判の手続(3審制)</p> <p>第6回 法と裁判(2) －裁判の基本原則(裁判の公開、当事者主義)</p> <p>第7回 刑事裁判と法(1) －捜査から起訴へ(令状主義、取り調べ→場所と期間制限→代用監獄、可視化の課題)</p> <p>第8回 刑事裁判と法(2) －起訴をめぐる重要原則(起訴便宜主義→検察審査会と強制起訴制度の新設)</p> <p>第9回 刑事裁判と法(2) －公判をめぐる重要原則(自由心証主義、証拠法則→自白、伝聞証拠等の証拠能力)</p> <p>第10回 犯罪と刑罰の法(1) －人権保障と罪刑法定主義(近代刑法の基本原則→憲法39条)</p> <p>第11回 犯罪と刑罰の法(2) －犯罪とは何か(犯罪成立の三要件→構成要件、違法性、有责性)</p> <p>第12回 犯罪と刑罰の法(3) －刑罰の思想、刑罰の種類、死刑存廃論(歴史、現状、世界の流れ)</p> <p>第13回 裁判員裁判 －制度の趣旨、仕組み・内容、問題点及び課題</p> <p>第14回 ビデオ観賞 －陪審員裁判「12人の恐れる男」(米)</p> <p>第15回 授業のまとめ －法学学習の意義と法治主義</p>
授業概要	講義形式
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	政治、経済、社会の動きに関心を持つことがスタートです。関連のある文庫本などを読みましょう。
テキスト	伊藤博義「若者たちと法を学ぶ」有斐閣（購買部から購入のこと）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	法律は一見分かりづらく難しいもののように思われがちですが、具体的な問題から法を眺めると、私たちにあって、こんなに身近で面白いものかということが必ず分かってきます。日頃から、新聞、テレビ等でニュースに関心を持ち、問題意識を育てることが大切です。この授業を通じて、人権感覚を磨きましょう。
評価方法	試験（70％）、授業への参加度（出席カードの記述内容で判断）（30％）
参考文献	授業の際にその都度指示する。
備考	

講義科目名称：政治学（30950）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	政治学や政治心理学の知見を用いて、政治現象についての理解を深めることができる。		
授業計画	第1回	はじめに	
	第2回	民主主義（これまでの変遷）	
	第3回	民主主義（今日の課題）	
	第4回	イデオロギー	
	第5回	映像でみるイデオロギー	
	第6回	政党	
	第7回	政党支持	
	第8回	選挙制度	
	第9回	映像でみる公民権運動	
	第10回	選挙の理論	
	第11回	映像でみる日本の選挙	
	第12回	政策決定ゲーム	
	第13回	政治的パーソナリティ	
	第14回	政治的社会化	
	第15回	テロリズム	
授業概要	政治過程や政治現象の心理的側面に関するトピックを取り上げて講義する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。		
テキスト	レジュメをPDF形式で配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この授業では、政治学を学んだことのない学生向けに、まず政治学や政治過程論に関する内容を講義し、政治心理学に関する内容は後半で取り上げます。また、学生から意見を集めたり、ドキュメンタリーを見て考えてもらう、参加型の授業を目指します。なお「社会心理学」「集合行動論」「国際関係論」といった科目も履修すると、より理解が深まると思います。		
評価方法	課題レポート（70%）、授業への参加度（30%）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：社会学(日) (30960)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
中川 恵			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 社会学の専門知識を習得する。 2. 関連する社会課題・事象について関心を広げる力を伸長する。
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン：本講義のねらいと方針 R. Collins, 1992, SOCIOLOGICAL INSIGHT: An Introduction to Non-Obvious Sociology Second Edition, Oxford: Oxford University Press (=2013、井上俊・磯部卓三訳、『脱常識の社会学—社会の読み方入門 [第2版]』岩波書店)</p> <p>第2回 社会学とは何か 作田啓一・井上俊編、1986、『命題コレクション社会学』筑摩書房。</p> <p>第3回 社会を観察する方法</p> <p>第4回 社会で生きる「私」／変容する家族のかたち 長田政一・田所承己編、2014、『つながる・つながらぬの社会学』弘文堂。</p> <p>第5回 性の多様なあり方を考える／「現実を生きる」ための社会学 北原みのり編、2017、『日本のフェミニズム Since1886 性の戦い編』河出書房。</p> <p>第6回 ガイダンス：「いい考察」とはなにか</p> <p>第7回 日本で進展する環境・災害社会学 関礼子・廣本由香編、2017、『鳥栖のつむぎ—もうひとつの震災ユートピア』利泉社。</p> <p>第8回 社会学から医療を見つめる／社会学は教育とどう向き合うのか 吉見俊哉、2016、『「文系学部廃止」の衝撃』集英社新書。</p> <p>第9回 逸脱行動と社会問題 内田良、2015『教育という病 子どもと先生を苦しめる「教育リスク」』光文社新書。</p> <p>第10回 ガイダンス：「考察」を深めるヒント</p> <p>第11回 「格差」の社会学 荻谷剛彦、2012、『学力と階層』朝日新聞出版。</p> <p>第12回 生活空間としての地域社会 竹内利美、1990、『竹内利美著作集1 村落社会と協同慣行』名著出版。</p> <p>第13回 グローバル社会とエスニシティ 田辺俊介編著、2011、『外国人へのまなざしと政治意識—社会調査で読み解く日本のナショナルリズム』勁草書房。</p> <p>第14回 宗教から社会を捉える／社会のなかのメディア 岩田重則、2006、『「お墓」の誕生—死者祭祀の民俗誌』岩波新書。</p> <p>第15回 国家と社会運動 大畑裕嗣・成元哲・道場親信・樋口直人編、2004、『社会運動の社会学』有斐閣選書。</p>
授業概要	<p>レクチャー形式の講義です。</p> <p>毎回、テキストの内容確認をしたあと、解説やコラム購読を通じて考察を深めます。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	テキストと参考文献を講読してから講義に臨んでください。
テキスト	篠原清夫・栗田真樹編、2016、『大学生のための社会学入門』晃洋書房。(2,200円＋税)
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	毎時、課題を実施します。
評価方法	<p>毎時の試験(100)</p> <p>*成績評価は基本的に試験の達成状況に大きく配分しますが、受講生の人数等によって多少変動することがあります</p>
参考文献	<p>*参考文献は学生の関心により変動する場合があります。</p> <p>*参考文献は毎時指示します。</p>
備考	

講義科目名称：経済学（30970）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
鈴木 久美			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日常生活とミクロ経済学、マクロ経済学の概念の融合を目的とします。 新聞やテレビの経済ニュースを経済理論で説明できるようになることを目的とします。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 経済学概論</p> <p>第3回 需要・需要曲線</p> <p>第4回 消費者余剰・需要曲線のシフト</p> <p>第5回 供給・供給曲線</p> <p>第6回 生産者余剰・供給曲線のシフト</p> <p>第7回 市場均衡・均衡の変化</p> <p>第8回 確認課題(1)・確認課題(1)の解答</p> <p>第9回 GDP①：定義など</p> <p>第10回 GDP②：名目と実質</p> <p>第11回 国民所得の決定①：民間消費</p> <p>第12回 国民所得の決定②：投資・政府支出</p> <p>第13回 国民所得の決定?：均衡国民所得</p> <p>第14回 財政乗数・租税乗数</p> <p>第15回 確認課題(2)・確認課題(2)の解答</p>
授業概要	講義形式を主体とします。テーマごとに講義を受けた後、確認のために授業内課題を行います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	予習：必要ありません。 復習：学習した概念を次回の講義で利用するので知識の定着をはかってください（必要時間30分程度）。
テキスト	必要に応じて授業内で指定します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	経済学は、積み上げていくタイプの科目なので毎回の講義をきちんと理解しないと次回の講義が理解できなくなる可能性があります。そのため、復習を厭わない方にお勧めします。 数学を利用します。
評価方法	期末テスト（80%）、確認課題（20%）
参考文献	
備考	1回目の講義には必ず出席すること。

講義科目名称：倫理学（30980）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
岡安 儀之			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	倫理学を学ぶことによって、他者と共生できる力を身に付けること。
授業計画	<p>第1回 倫理学とは何か</p> <p>第2回 日本における倫理学の成立</p> <p>第3回 義務論①：演習（小論文の作成）</p> <p>第4回 義務論②：講義</p> <p>第5回 功利主義①：演習（小論文の作成）</p> <p>第6回 功利主義②：講義</p> <p>第7回 自由主義①：演習（小論文の作成）</p> <p>第8回 自由主義②：講義</p> <p>第9回 正義論①：演習（小論文の作成）</p> <p>第10回 正義論②：講義</p> <p>第11回 共同体主義①：演習（小論文の作成）</p> <p>第12回 共同体主義②：講義</p> <p>第13回 命のはじまりに関する倫理問題</p> <p>第14回 命のおわりに関する倫理問題</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	倫理学とは、正しいことの基準を考える学問です。他者の行為や言動に対する自分の感情、あるいは自分の行為や言動に対する他者の反応は、実にこの基準から生まれています。授業では、社会のあらゆる場面に存在するこの基準に関わる倫理学の基礎を学んでいきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	予備知識は特に求めませんが、普段から倫理的な問題に関心を持ち、考えることを厭わず積極的に参加して欲しい。
テキスト	特に指定せず、必要に応じてプリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	基本的に、各テーマは演習（小論文作成）1回とそれをもとにした講義1回の計2回で完結します。授業では、作成してもらった小論文を参考にしながら、受講生との対話を重視して進めていきたいと考えています。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業への参加度（小論文など）50% レポート50%
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 小松光彦ほか編『倫理学案内—理論と課題』慶應義塾大学出版会、2006年 加藤尚武『現代倫理学入門』講談社、1997年 星野勉・三嶋輝夫・関根清三（編）『倫理思想辞典』山川出版社、1997年 他は、授業時に適宜紹介する。
備考	

講義科目名称：哲学（30990）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
小熊 正久			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	人間と世界の関わりについて考える。生活上の感覚やさまざまな知識を活かしながら、人間について考えることができるようになることを目標とする。
授業計画	<p>第1回 講義全体の概観。 身体について（メルロ＝ポンティを中心に）1）主体的身体と客体的身体</p> <p>第2回 身体について 2）身体の統合と志向性</p> <p>第3回 身体について 3）知覚と身体の運動</p> <p>第4回 デカルトの哲学 1）懐疑から「我思う」へ 近代初頭の哲学者デカルトの問題意識と懐疑の結論。</p> <p>第5回 デカルトの哲学 2）自己と心身問題：思考するものとしての自己。現代までつながる心身問題。</p> <p>第6回 自己の問題 1）自己の問題と実存：ヒューム、カントの考え。キルケゴールとハイデガーの「実存」</p> <p>第7回 自己の問題 2）「世界内存在」（ハイデガーを中心に）。道具連関による例。</p> <p>第8回 知と言葉 1）ソクラテス(知的探求の原点として)</p> <p>第9回 知と言葉 2）プラトン：イデア論について (観念や意味という考えの源流として)</p> <p>第10回 知と言葉 3）ジョン・ロックとバークリー 観念の形成とコミュニケーション。バークリーによる「抽象観念」の批判。</p> <p>第11回 知と言葉 4）言葉と意味、ソシュール：差異について。 記号の<音声・文字>と<意味></p> <p>第12回 知と言葉 5）語の関連性と意味 語の変遷と歴史(共時態と通時態)</p> <p>第13回 行動の諸形態 1）癒着的形態の行動、可動的形態の行動 動物の行動形態の分類を参考に、人間の行動を振りかえる。</p> <p>第14回 行動の諸形態 2）象徴的形態の行動 地図と音譜による表現を例として。</p> <p>第15回 自己と他者について：フッサールとメルロ＝ポンティの考え</p>
授業概要	身体、自己、言葉、環境、他者という観点から、人間とまわりの世界の関わりについて考える。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	毎回の授業で取り上げられる問題について、自分の考え方や疑問点を整理すること。
テキスト	テキストは使用しない。プリントを配布して授業を進める。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	発声や表現を工夫するとともに、それぞれの主題を明確にすることによって、わかりやすい授業としたい。メールも含め、質問や感想をどんどん寄せてください。
評価方法	2回の課題提出（80%）と授業参加（質問や感想を含む。20%）による。
参考文献	随時参考となる本を紹介する。
備考	

講義科目名称：宗教学（31000）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
原 淳一郎			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	世界の宗教を事例としながら、人間にとって宗教とはどのようなものかという普遍的な宗教学の課題を考えていきたい。また世界の諸宗教がどのような経緯で生まれ、その地域にどのような影響を与えているかを知ってもらい、世界を自分なりに理解する手がかりとしてもらえれば幸いです。今後の国際化社会のなかでは、重要な視点の1つであるはずで
授業計画	<p>第1回 宗教はどのようにして生まれるのか？</p> <p>第2回 宗教の定義、宗教の分類</p> <p>第3回 宗教的世界観1（神話の世界1）</p> <p>第4回 宗教的世界観2（神話の世界2）</p> <p>第5回 宗教的世界観3（聖と俗）</p> <p>第6回 宗教的世界観4（死と再生）</p> <p>第7回 宗教的世界観5（天国と地獄）</p> <p>第8回 ユダヤ教とキリスト教</p> <p>第9回 イスラム</p> <p>第10回 ヒンドゥー教</p> <p>第11回 仏教</p> <p>第12回 日本における仏教</p> <p>第13回 儒教・老荘思想・道教・修験道</p> <p>第14回 神道と国家神道</p> <p>第15回 新宗教と現代宗教</p>
授業概要	宗教学の概念、宗教学のいくつかの分野、各成立宗教と民族宗教の紹介を通じて、いかに宗教が身近であるか、世界の紛争の多くが宗教に端を発しているか、日々の生活において宗教が多く基準となっているか、そしていかに日本人がそれに疎いか、を実感してもらえるようにしていきたいと考えています。教員自身の体験、宗教学会や人類学会での各研究者の報告から色々なエピソードを交えてお話ししていきたいと思
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	日頃より読書やテレビ視聴、映画鑑賞を通じて、宗教にかかわる事柄について積極的に情報収集し、主体的に考えること。
テキスト	とくになし。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	参考図書として、岸本英夫『宗教学』、宮家準『宗教民俗学』・『日本の民俗宗教』。興味が出てきたら是非読んでみて理解を深めてください。さらに関心があれば、適宜海外の文献も含めてお教えします。
評価方法	課題（年6回程度、そのうち数回簡単なテストを含む）の内容で評価します。内容の理解はもちろん、講義のなかでいかに自分の頭で様々なことを考えたか、が窺えるものを評価します。それぞれ4段階に評価し、平均をとって採点します。
参考文献	
備考	

講義科目名称：思想史（31010）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
小野 卓也			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>日本は昔から、インドや中国の文化（言語と論理、宗教と死生観、恋愛観や家族観など）を積極的に取り入れてきました。その結果、私たちの習慣やものの考え方の背景には、知らず知らずのうちにこうした国々の影響が多く残されています。</p> <p>この授業では、私たちの日常生活にひそむインドや中国からの影響を学び、その発想や捉え方の違いを、日本と比較して見ていきます。当然と思っていたことの背景にある未知の歴史や、それが当然ではない世界との比較から見えてくるものは何か、一緒に考えていきましょう。</p>
授業計画	<p>第1回 日本語の中のインドの言葉</p> <p>第2回 七福神の成り立ち</p> <p>第3回 カレーライスの歴史</p> <p>第4回 無常について</p> <p>第5回 苦と解脱</p> <p>第6回 善悪の基準</p> <p>第7回 業と来世</p> <p>第8回 世界の始まりと終わり</p> <p>第9回 先祖と神仏</p> <p>第10回 愛と慈悲</p> <p>第11回 心とは何か</p> <p>第12回 身分と差別</p> <p>第13回 議論と論理</p> <p>第14回 仏教と女性</p> <p>第15回 家族のあり方</p>
授業概要	毎回テーマに沿って、インド・中国・日本、あるいはバラモン教・ヒンドゥー教・儒教・道教・仏教における考え方の違いを比較していきます。授業の最後に簡単な課題を出し、次回まで考えてきて、出席カードに書いてもらいます。優れた回答は発表します。
実務経験及び授業の内容	講師はインド留学経験があり、そこでの見聞も授業中に適宜紹介していきたいと思います。また禅宗寺院の住職、人権擁護委員、保護司、家庭教育アドバイザー、県男女共同参画推進員なども務めており、その実務経験に基づいた現代の問題にも触れます。
時間外学習	授業の最後に出す課題は、自身の経験に照らして考えてきてもらう内容です。授業内容をもとに、自分の見方や考え方を整理してきてください。
テキスト	プリントを配布しますので、穴をあけて綴じられるA4ファイルを用意してください。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	聞いてなるほどと思うだけでなく、それが自分の考え方にどのように関係してくるのかを考えてもらえるよう心がけて進めていきたいと思っています。
評価方法	毎回、授業の終わりに感想を書いてもらい、これを出席点とします。そのほかにレポートを2回書いてもらい、出席点80%、レポート20%で成績を評価します。
参考文献	授業中に適宜紹介します。
備考	第1回は休講になり、その分の補講を夏休みに行います。